

トエ-15-4

49-72

著 一 剛 浪 藤 士 博 學 醫

譜 圖 眞 寫 ン ゲ ト ン レ

—— 輯 一 第 ——

京 東
店 書 屋 香 朝

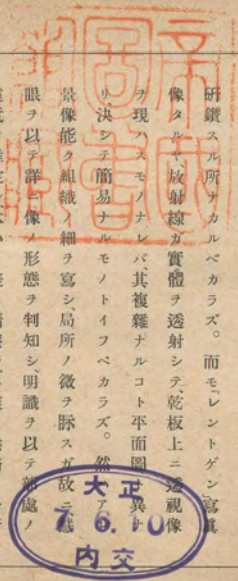
4972 同12カ所

レントゲン寫眞圖譜

序

「レントゲン診斷學ハ斬新ナル一學術ナリ。而シテ之ニヨリテ確實ナル診斷ヲナサント欲セバ、須ラク、レントゲン陰影ナル寫眞像ノ形態ニ就キテ、專思研鑽スル所ナルベカラズ。而モレントゲン寫眞像タルハ、放射線ガ實體ヲ透射シテ、乾板上ニ透視像ヲ現ハスモノナレバ、其複雜ナルコト平面圖リ決シテ簡易ナルモノトイフベカラズ。然ラ景像能ク組織ノ細ヲ寫シ、局所ノ微ヲ脉スガ故ニ、眼ヲ以テ詳ニ像ノ形態ヲ判知シ、明識ヲ以テ遠近ヲ推定シ、大小ノ差ヲ精察シ、多樣ノ陰翳ヲ分析シ、此ノ如クニシテ始メテ能ク的確痛快ノ診斷ヲ下スコトヲ得ベシ。若シ此ノ智識ヲ缺如シ、此ノ注意ヲ閑却センカ、營ニ錯謬ヲ失ハザルノ明ニ到ルヲ得ザルノミナラス、甚ダシキハ其重要ナル象ヲモ雲煙過眼視シテ、顧ミザルノ弊ニ陥ラントスルモノアリ。豈ニ此處ニ三思スル所ナルベケンヤ。

「レントゲン寫眞像ヲ視テ、其ノ何物タルカヲ辨別



二
シ難シトノ批評ハ吾人ノ常ニ聽ク所ナリ。「レント
ゲン」圖像ノ批判ハ果シテ斯ノ如ク至難ナルカ。抑
「レントゲン」像ヲ明辨セント欲セバ先ヅ第一歩トシ
テ健康ナル人體ノ「レントゲン」像ヲ學バザルベカラ
ズ。然リト雖モ健康ナルモノモ猶ホ個體ニヨリテ
多少ノ差別アルヲ免レズ而シテ之ニ應ジテ「レント
ゲン」像モ亦多少ノ差別アルハ當然ノコトニシテ其
ノ健康ナル狀態ニアルカ將又病的變化ナルカノ境
界ニ就キテハ多數ノ「レントゲン」像ヲ觀察シタル經
驗ニ加フルニ臨床上ノ觀察ヲ以テシ參酌討尋シテ
乃チ公平ナル判定ヲ下スコトヲ得ベキモノナリ。
而モ吾人ハ更ニ又徹底セル觀察力ヲ養ハザルベカ
ラズ。此ノ觀察力ヲ獲得スルハ即チ「レントゲン」解
剖學ヲ修習スルニアリ。而シテ「レントゲン」解剖學
ハ其ノ要旨生體ヨリ得タル「レントゲン」像ノ部位ガ
普通解剖ノ何レノ部處ニ相當セルカヲ嚴正ニ比較
研究スルニアリ。換言スレバ解剖上ノ某局所ハ「レ
ントゲン」寫眞像トシテハ如何ナル陰影ガ現出セル
カラ對照スルニアリ。斯ノ如キ研究ヲ積ミテ「レン
トゲン」像ノ何物ナルカハ容易ニ解釋セラレ茲ニ始

メテ「レントゲン」診斷ニ的確ナル斷案ヲ下スコトヲ
得ベシ。乃チ知ル「レントゲン」寫眞ノ解釋ハ決シテ
至難ノ業ニ非ズ唯ダ其ノ關門ヲ開クベキ鍵鑰ノ如
何ニアルコトヲ。

茲ニ十六歳ノ男子ノ手腕部ヲ撮影シタルニ尺骨
ノ骨端ハ既ニ化骨シテ骨端軟骨線ヲ視ザルニ、橈骨
ニ於テハ僅ニ骨端軟骨線ヲ存シ其一部ハ化骨セル
アリ。此等ノ場合ニアリテ動モスレバ其遺存セル
軟骨線ヲ誤リ認メテ骨折線ト爲スガ如キコトハ、吾
人ノ屢々之ヲ聞ク所ナリ。又吾人ガ解剖ニ際シ開腹
術ニ臨ミテ視タル胃及ビ腸殊ニ大腸ノ位置形狀ト、
生體ヲ透視シテ得タル「レントゲン」陰翳ノ示セル形
狀位置トノ著シク相異セルニ一驚シ「レントゲン」像
ヲ以テ偽レル形狀ト見做サントスルモノアリ。サ
レド此ノ如キハ生死體ノ區別ヲ忘レテ批評セント
スル短見ニシテ一ハ屍體ニ於テ臟器ガ悉ク弛緩セ
シ爲メ又開腹術ニ於テハ患者ハ麻醉狀態ニアリテ
腹壁ノ切開セラレタルガ爲ニ腹筋ハ緊張力ヲ失ヒ、
其ノ影響ヲ胃腸ニ與ヘタル狀態ニ在リ他ハ生體ニ
於テ凡テガ緊張セル場合ノ觀察ナルヲ以テ素ヨリ

兩者ハ明カニ觀察ノ出發點ヲ異ニスレバ其ノ形狀位置ノ異ナルモ亦怪シムニ足ラザルナリ、近時解剖學教科書ニ於テ生體ノレントゲン寫眞像ヲ挿置シテ此ノ缺點ヲ補ハントスルニ至リタルハ學界ノ進歩ト謂ハザルベカラズ。

最近ニ至リ我ガ醫界ニ於テレントゲン學ヲ診斷及ビ治療ニ應用セントスルモノ、日ニ益々多キヲ致セリ。是レ定ニ人生ノ福祉ト謂フベシ。然レドモ斯學ノ教育機關ノ未ダ備ハラザルハ實ニ痛嘆ノ至リニ堪ヘズレントゲン學既ニ一專門科トシテ醫界ノ一領域ヲ占ム。之ニ對シテ相當ナル教育ノ途ヲ講ジ健全ナル斯科ノ發展ヲ促サバカラザルハ敢テ喋々ノ辯ヲ費スヲ須タズ彼ノ往々ニシテレントゲン診斷ノ名ヲ假リ識者ノ一嘆ニモ値セザルコトヲ敢テズル徒アルハ是レ斯學ノ研鑽ガ幼稚ナルニ由ルモノニ外ナラズ吾人ガ同志ト共ニ斯學ノ正當ナル發展ニ務メザルベカラザル所以ノモノ、洵ニ此ニ存スト謂フベシ。

我ガ國ニ於テレントゲン寫眞圖譜ノ發行セラレシモノ未ダコレアラズ。偶醫學雜誌ニ挿入セル寫

眞圖ヲ見ルモ像形模糊トシテ細微ヲ極ムルニ足ラズ。之ヲ伯林新寫眞會社ノ製作ニ係ルレントゲン圖譜又ハ米國市俄古ノドクトルコールノ圖譜ニ比スレバ其ノ差霄壤モ營ナラザルヲ見シ。余嘗テ伯林新寫眞會社ノ製版ヲ東京ノ二三ノ印刷所ニ示シシニ惜ムラクハ我ガ技未ダ彼ニ及バズ到底印刷ノ方法ナシトイヘリ。余竊ニ志ヲレントゲン圖譜編纂ノコトニ致シシヲ以テ之ヲ聞イテ失望落膽措ク能ハズ一タビ此ノ事業ヲ以テ望ミナキモノトセリ。而モ曩日偶朝香屋主人ノ來リ訪フアリ余氏ガ印刷ニ多大ナル趣味ヲ有シ斯道ニ卓越セル遺詣アルヲ知ルヲ以テ余ガ往年ノ計畫ヲ告ゲ歐米ノレントゲン圖譜ニ劣ラザル陰畫ヲ印刷シ得ベキカラ問ヒシニ氏ハ言下ニ之ニ應ジテ必ズヤ彼ニ優ルベキ印刷ヲ提供スベキヲ約セラレ爾來數ヶ月果シテ鮮明ナル圖ヲ作り余ノ宿望ヲ充タサレタリ。茲ニ公ニセル圖譜即チ是レナリ。吾人ガ今日斯ノ如キ圖像ヲ得ルニ至リタルハ寔ニレントゲン寫眞ヲ要スルモノノ慶賀スベキコトニシテ吾人ハ朝香屋主人ガ率先シテ這箇微妙ナル印刷ヲ遂ゲラレタル努力ヲ深

ク喜ビ此ノ圖譜ノ出版モ一ニ斯學ノ爲ニ竭サント
セラルル主人ノ好意ニヨルコトヲ謝セントス。
本圖譜ハ健康ナル生體ノレントゲン圖像ヲ先キ
ニシ、次グニ病的ノモノヲ以テス。前者ニアリテハ
則チ幼兒ノモノヨリ漸次年長者ニ及ビ、後者ニアリ
テハ則チ疾病ヲ以テ部類セントス。若シ夫レ本譜
ニシテ幸ニ參考ノ一資料タルヲ得バ編者ノ満足實
ニ之ニ過タルモノアラザルナリ。

大正七年四月下泮

藤浪剛一

レントゲン寫眞圖譜第一輯解説

醫學博士 藤浪剛一 著

第一表

第一圖

胎生二週日 未ダ何處ニモ化骨點ノ生成セシ

モノヲ見ズ。

第二圖

胎生一ヶ月 圓形ノ黑點ヲ見ル恐クハ化骨點

ナリ。

第三圖

胎生一ヶ月半 前者ニ比セバ顔面骨、鎖骨及ビ肋

骨ノ生成セシヲ見ルモ四肢骨ニ

於テハ未ダ認ム可キ骨影現レズ。

第四圖

胎生二ヶ月 前者ニ比シテ頭蓋骨ノ部分的ノ

骨影ノ區別ヲ知ルニ至レリ。

第五圖

胎生二ヶ月

前者ト異ナレル點ヲ見ズ。

第六圖

胎生三ヶ月

頭蓋骨顔面骨ノ各部ヲ窺知シ得ルノ他脊柱及ビ四肢骨ノ幹骨ノ現レタルヲ見ル可シ。

第七圖

胎生四ヶ月

前者ニ於ケル骨影ノ他指骨及ビ趾骨ノ幹骨ガ發生セシヲ見ン。

第二表

第八圖

初生兒 (七ヶ月出産)

第三表

第九圖

生後四ヶ月ノ女子ノ左手
各指骨及ヒ掌骨ノ骨幹及ヒ橈骨R、尺骨Uノ骨幹
骨ガ現レ居ルノミ。



R 橈骨
U 尺骨
I 拇指列
II 示指列
III 中指列
IV 無名指列
V 小指列

通常手腕骨ノ内有鈎骨及ヒ小頭骨ハ生後二ヶ月ノ半バニ於テ現ル、モノナルガ本見ニ於テ未ダ之ヲ見ズ。此二骨核ハ早發シ又ハ遲發スルコト屢々アリ。

第十圖

生後半歳ノ男子ノ左手

骨ノ發生ハ前者ト異ナル所ヲ見ズ。本圖ニ於テ點線ヲ引ケルハ皮膚及ヒ皮下脂肪層ト筋層トノ境界ナリ。猶又本圖ニ於テ手腕部ノ中央ヲ横斷セル點線條ハ手腕關節部ニ於ケル肥滿セル皮膚ノ皺襞ナリ。

猶注意ス可キハ示指骨第二關節間腔ノ狭キコトナリ、コハ指ノ曲リタルマ、撮影シタルヲ以テ撮影上カ、ル影像ヲ呈シタルモノナリ。



R 橈骨
U 尺骨
I 拇指列
II 示指列
III 中指列
IV 無名指列
V 小指列

第四表

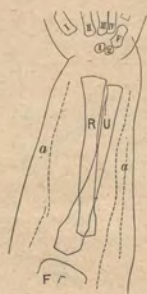
第十一圖

生後第二歳ノ男子ノ右手腕

本兒ニ於テハ二腕骨ノ骨核現出セルモノアリ、即チ小頭骨¹及ビ有鈎骨²ノ骨核ナリ。
 橈骨及ビ尺骨ニ於テハ唯骨幹現ルノミ、其近心端及ビ遠心端ハ大人ニ比シテ形態ノ著シク異ナルヲ視ル是レ當該骨端ニ於ケル骨核ノ化生未ダ達ゲザルヲ以テ、形態ノ完成セザルニ基ケリ。
 通常此年齡ニ於テ橈骨骨端骨核ハ發生セルモノナルガ、本兒ニ於テ未ダ之ヲ見ズ。骨核ノ發現期ニハ健兒ト雖早遲ヲ免ル、コト能ハズ。
 橈骨及ビ尺骨ノ遠心骨端ハ平滑ニシテ僅ニ穹窿ヲ描キ、其游離縁ニ比較的強キ陰影帶ヲ見ル、是レ骨ノ發育旺盛ナルヲ示セルモノニシテ成骨細胞ニ富饒ナル部ニ相當セリ、若シ骨發育障害アルモノニ於テハ骨幹端縁ハ不整粗糙トナリ、總狀ヲ作レリ。

第十二圖

第二歳ノ男子ノ左手



- | | |
|-----|-------|
| 1 | 小頭骨 |
| 2 | 有鈎骨 |
| I | 拇指列 |
| II | 示指列 |
| III | 中指列 |
| IV | 無名指列 |
| V | 小指列 |
| R | 橈骨 |
| U | 尺骨 |
| F | 上膊骨 |
| a | 皮下組織層 |

上記ノ如ク腕骨ニハ小頭骨¹及ビ有鈎骨²ノ骨核ノ他新ナル骨核ノ發現セシモノヲ見ズ。

無名指骨第三節ノ陰影ヲ見ザルハ撮影ニ際シ保護者ガ自個ノ指ヲ以テ其部ヲ握リタル爲ニ其骨影ガ小サキ指骨ノ陰影ヲ被ヒシ爲ニ之ヲ發見スルコト能ズ、故ニ撮影ニ際シテハ被檢面上ニ之ガ障害タル手指、金屬等ヲ以テ被フコトナキ様注意ス可シ。



1	小頭骨	R	橈骨
2	有鈎骨	U	尺骨
I	拇指列	I'	拇指骨列
II	示指列	II'	示指骨列
III	中指列	III'	中指骨列
IV	無名指列	IV'	無名指骨列
V	小指列	V'	小指骨列

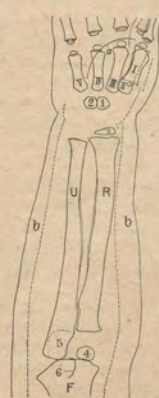
第五表

第十三圖

第三歳ノ女子ノ左手腕

既知ノ小頭骨1及有鈎骨2ノ他掌骨及ビ指骨
第一節ニ骨端骨核ガ現出セリ即チ掌骨ニ於テハ拇
指ノモノヲ除キテ他ハ悉ク遠心端ニ於テ指骨第一
節ニ於テハ皆近心端ニ於テ扁平ノ恰モ鏡餅ノ如キ
骨核ガ骨幹縁ノ中央ニ近接シテ現出ス而シテ骨核
ガ現ルレドモ骨幹縁ニハ變化ヲ見ズ。
更ニ橈骨ノ遠心端ニ於テモ骨端骨核3現レ三角
形ヲ呈ス而シテ又上膊骨Fノ一端ニ於テモ骨核4
現ル是レ將來上膊骨小頭トナル可キモノナリ上膊
骨ノ骨核ニ就キテハ後篇ニ於テ述ブル所アリ。
圖中第一掌骨Iガ第二掌骨II上ニ重リ居ルハ撮
影ニ於テ幼兒ガ無意識ニ拇指ヲ内轉シタルマ、撮
影シタルガ故ナリ。
肘關節領域ノ橈骨及ビ尺骨ノ形狀ハ其部ノ骨核
ガ未ダ發育セザル時ニハ此圖ノ如ク橈骨ト上膊骨

トハ稍著シク離レ尺骨ニ於テハ鷹嘴突起ノ骨核ノ發育未ダナキヲ以テ生理解剖的ノ狀態モ著明ナラザレドモ尙一定ノ體型ヲ有ス即チ尺骨ニ於テ陰影ノ淡キ部點線ニテ示セル所5ハ半月狀截痕ニ相當シ其内側ノ多少波狀ヲナセル部ハ橈骨截痕ナリ、橈骨小頭ニハ未ダ骨核現レズ其骨幹線ハ扁平ナルカ、或ハ僅ニ突隆シ其兩隅ハ外方ニ稍延ビテ銳シ尺骨ノ橈骨截痕ニ對向セル部ハヤ、突隆セリ是橈骨結節ナリ又上膊骨ニハ鷹嘴窩ノ一隅6ヲ見ル。



- | | | | |
|-------|------|---|---------|
| U R | 橈骨 | 1 | 小頭骨 |
| F U R | 尺骨 | 2 | 有鈎骨 |
| I | 上膊骨 | 3 | 橈骨骨端核 |
| II | 示指列 | 4 | 上膊骨小頭骨核 |
| III | 中指列 | 5 | 半月狀截痕 |
| IV | 無名指列 | 6 | 鷹嘴窩ノ一隅 |
| V | 小指列 | a | 拇指球 |
| | | b | 皮膚及皮下脂肪 |
- 橈骨及尺骨ノ各對側ニ描ケル點線ハ骨端ヲ示セリ。

第六表

第十四圖

四歳ナル男子ノ右手腕
小頭骨1有鈎骨2及ビ橈骨骨端核3ヲ現出セリ。
本兒ニ於テハ掌骨ニハ未ダ骨端核ノ現出ナキニ示
指中指及ビ第四指ノ指骨第一節ニ於テハ骨端骨核
ノ現レ居ルヲ見ル。



- | | | | |
|-----|-------|------|---------|
| 1 | 小頭骨 | U R | 橈骨 |
| 2 | 有鈎骨 | U R | 尺骨 |
| 3 | 橈骨骨端核 | I' | 拇指骨第一節 |
| I | 第一掌骨 | II' | 示指骨第一節 |
| II | 第二掌骨 | III' | 中指骨第一節 |
| III | 第三掌骨 | IV' | 無名指骨第一節 |
| IV | 第四掌骨 | V' | 小指骨第一節 |
| V | 第五掌骨 | | |
- 點線ニテ示セルハ皮下脂肪層及筋層ナリ。

第十五圖

六歳ナル男子ノ左手指

小頭骨1)及ビ有鈎骨2)ノ二骨核ガ現出セルノミ、而シテ此二骨核ハ發育シテヤ、將來ノ型態ヲ帶ブルニ至レリ。又腕骨骨端核3)モ現出ス。

各掌骨及ビ各指骨ニハ悉ク骨端骨核ガ現出セリ。第十三圖第十四圖及ビ第十五圖ヲ比較スルニ、指掌骨ノ骨端骨核ノ發生ノ順序ニ前後アルヲ知ラン、故ニ茲ニ指掌骨及ビ其骨端核ノ發生ニ就キテ述ベントス。

指掌骨ノ化骨ハ胎生期ニ於テ行ル、モノニシテ其發育次第ヲ四列ニ區別シ得。

第一列ノモノハ指骨第三節ノ化骨ナリ、然レドモ各節同時ニ現ル、モノニハ非ズシテ、マツ拇指及ビ中指ノモノ現レ、次ニ第四指ノモノ、更ニ示指ノモノ現レ、最後ニ小指ノモノ現ル。

第二列ノモノハ掌骨ニシテ、通常各骨同時ニ現ル。

第三列ノモノハ指骨第一節ニシテ、拇指ノモノマヅ現レタル後、示指、中指、第四指及ビ小指ノ順序ヲ以テ發生ス。

第四列ノモノハ指骨第二節、指第四ニシテ、示指、中指及ビ小指ノ順序ニ於テ化骨ス。

指掌ニ於ケル骨端骨核ハ十九箇ヲ數フ、内十五箇ハ近心端ニ在リ、他ノ四箇ハ遠心端ニ在リ、其化骨發現ノ順序ヲ舉グレバ、示指及ビ中指ノ指骨第一節ノ近心端骨核第一ニ現レ、之ニ續キテ第四指及ビ小指ノ指骨第一節ノ近心端骨核化骨ス、而シテ更ニ第二、第三、第四、第五ノ順序ヲ以テ、掌骨ノ遠心端骨核ガ現ル、モノナリ。更ニ遅レテ、指骨第三節ノ近心端骨核ガ現ル、其化骨次第ハ、拇指、中指、第四指、示指及ビ小指ノモノニシテ、之ニ次ギテ、指掌骨近心端骨核ガ現ル、ナリ。

最後ニ、指骨第二節ノ近心端骨核現ル、モノニシテ、拇指、第四指、中指、示指及ビ小指ノ順序トス。

第七表

- | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|------|---|-------|
| V | IV | III | II | I | 2 | 1 | V' | IV' | III' | II' | I' | 4 | 3 |
| 第五掌骨 | 第四掌骨 | 第三掌骨 | 第二掌骨 | 第一掌骨 | 有鈎骨 | 小頭骨 | 小指骨列 | 無名指骨列 | 中指骨列 | 示指骨列 | 拇指骨列 | 爪 | 橈骨骨端核 |



第十六圖

七歳ナル男子ノ左手腕
前者ニ比シ新ナル骨核ノ現出ヲ見ズ。



- | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-------|-----|-----|------|-------|------|------|------|
| V | IV | III | II | I | 3 | 2 | 1 | V' | IV' | III' | II' | I' |
| 第五掌骨 | 第四掌骨 | 第三掌骨 | 第二掌骨 | 第一掌骨 | 橈骨骨端核 | 有鈎骨 | 小頭骨 | 小指骨列 | 無名指骨列 | 中指骨列 | 示指骨列 | 拇指骨列 |

第十七圖

十歳ナル男子ノ右手腕

腕骨ノ内新ニ三稜骨骨核ヲ現出セルヲ見ル。
小頭骨I及ビ有鈎骨3ハ著シク發育シテヤ、將來
ノ完成型ヲ帶ブルニ至レリ、橈骨骨端核モ増大シ頓
ニ其廣徑ヲ増シ骨幹縁ノ廣ニ近ケリ又指骨ノ骨端
骨核モ大ニ發達シテ形態ヲ一變セルニ至レリ。



- | | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 1 | 小頭骨 | R | 橈骨 |
| 2 | 有鈎骨 | U | 尺骨 |
| 3 | 三稜骨 | a | 爪 |
| 4 | 橈骨骨端核 | b | 皮下組織層 |
| I | 第一掌骨 | I' | 拇指骨列 |
| II | 第二掌骨 | II' | 示指骨列 |
| III | 第三掌骨 | III' | 中指骨列 |
| IV | 第四掌骨 | IV' | 無名指骨列 |
| V | 第五掌骨 | V' | 小指骨列 |

第八表

第十八圖

十二歳ナル男子ノ左手腕

各腕骨ノ内未ダ現レザルモノハ豆骨骨核ノミ而
シテ又尺骨骨端核モ猶化骨セズ其現出セル各骨核
ハ何レモ將來完成セントスル形態ヲ保ツニ至レリ。
指骨及ビ掌骨ノ骨端核ハ何レモ發現シ、骨幹縁ト
ノ境界ハ平滑ニシテ一定ノ間隙ヲ保テリ。
腕骨ノ發生ハ各人ニヨリテ多少ノ順序ヲ異ニシ、
又化骨期ニ遲速アルモ、左ノ次第ノモノ最モ通常ト
ス。

小頭骨——有鈎骨——橈骨骨端核——三稜骨——月樣骨——舟狀骨——大多稜骨——小多稜骨——尺骨骨端核。
其現出順序ノ内、小頭骨有鈎骨橈骨骨端核及ビ三稜骨ノ順序ハ一定セルモ、他ノ骨核ノ發現ハ前後スルコト稀レナラズ。而シテ腕骨骨核ノ現出期ハ約左ノ年齢ニ於テ現ル、モノトス。

骨 名	通常ノ發現時期	早 發 時 期	晚 發 時 期	早發晚發ノ 間 隔 時 期	備 考
小 頭 骨	第二月ノ半バ	第一月ノ了	第六月ノ半バ	五ヶ月間	屢、早發及晚發アリ
有 鈎 骨	第二月ノ半バ	第一月ノ了	第六月ノ半バ	五ヶ月間	屢、早發及晚發アリ
橈骨骨端核	第一歳三月	第 八 月	第三歳ノ始メ	一ヶ年	早發及晚發ハ少シ
三 稜 骨	第三歳ノ半バ	第一歳三月	第四歳ノ半バ	二ヶ年以上	早發ハ屢、アレドモ 晚發ハ稀ナリ
月 樣 骨	第四歳ノ半バ	第三歳ノ半バ	第六歳ノ始メ	約三ヶ年	早晩發共ニ稀ナリ
舟 狀 骨	第六歳ノ始メ	第五歳ノ始メ	第七歳ノ了	約二ヶ年半	同 上
大多稜骨	第六歳ノ始メ	第五歳ノ半バ	第七歳ノ始メ	約一ヶ年半	同 上
小多稜骨	第六歳ノ始メ	第五歳ノ半バ	第七歳ノ始メ	約二ヶ年半	同 上
尺骨骨端核	第七歳ノ始メ	第六歳ノ始メ	第八歳ノ半バ	約二ヶ年半	早發ハ時々アルモ 晚發ハ稀ナリ
豆 骨	第十二歳ノ始	第九歳ノ始メ	第十二歳ノ了	約三ヶ年	早晩發共ニ少シ



- 1 大多稜骨
 - 2 小多稜骨
 - 3 小頭骨
 - 4 有鈎骨
 - 5 舟狀骨
 - 6 月樣骨
 - 7 三稜骨
 - 8 橈骨骨端核
- U 尺骨
R 橈骨
a 骨發育線

橈骨ニ於テ數條ノ横線ヲ走レルヲ見ル此者ハ互ニ並行シ、或ルモノハ半ニシテ了レルモノアリ、或ハ一端ヨリ他端ニ涉レルモノアリテ、骨發育ノ次第ヲ示シ骨發育線ト稱ス、骨發育ノ旺盛時ニ於テ現ルル生理的現象ナリ。

第九表

第十九圖

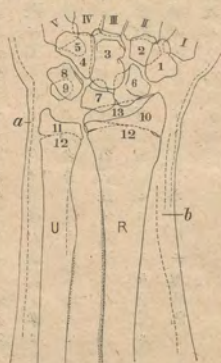
十八歳ナル女子ノ左手腕

各腕骨ハ悉ク現レ其形態モ完成セリ而シテ各骨間ノ空隙關節腔ハ一定ノ廣サヲ保テリ。

尺骨ト三稜骨トノ間ハヤ、廣キヲ常トス。

橈骨及ビ尺骨ノ骨端骨核10及ビ11ハ全ク完成シテ骨端軟骨線モ漸次狹隘トナリテ遂ニ消失ス其消失期ハ通常第十七歳乃至第十八歳ノ了リナリ其消失セントスル時期ニ於テハ軟骨線ハ細キ線條トナリ一端ヨリ消失シ始ムルヲ以テ時ニハ他端ノ僅ニ哆開セルコトアリ斯ル場合ニ於テ此軟骨線ヲ以テ骨折線ト誤謬スルコトアレドモ生理的ノ軟骨線ハ細キ淡キ線ガ互ニ接觸セル觀ヲ呈シ緩カナル波濤狀ヲ呈セリ。

圖解ニ於テ橈骨及ビ尺骨ノ各内側ニ點線ヲ以テ示セルハ骨橋ニ相當セル部ニシテ其陰影淡ク緻密質トノ移行セル所ハ不明瞭ナリトス。



- | | | | |
|---|------|-----|-------------|
| 1 | 大多稜骨 | 10 | 橈骨骨端核 |
| 2 | 小多稜骨 | 11 | 尺骨骨端核 |
| 3 | 小頭骨 | 12 | 軟骨線終ニ癒著セル狀態 |
| 4 | 有鈎骨 | 13 | 橈骨關節面 |
| 5 | 小鈎 | R | 橈骨 |
| 6 | 舟狀骨 | U | 尺骨 |
| 7 | 月樣骨 | a | 皮層 |
| 8 | 三稜骨 | b | 筋層 |
| 9 | 豆骨 | | |
| | | V | 第五掌骨底 |
| | | IV | 第四掌骨底 |
| | | III | 第三掌骨底 |
| | | II | 第二掌骨底 |
| | | I | 第一掌骨底 |

第十表

第二十圖

三十歳ナル男子ノ左手腕

各骨ハ最モ十分ニ完成セリ。

指骨第三節ノ末端ハ通常平滑ニシテ穹窿ヲ呈シ、
兩端膨隆シ内外側ハ相對セル形狀ヲ帶ベリ、老人ニ
於テハ往々ニシテ棘狀ノ贅骨ヲ附著スルヲ見ルモ、
コハ病的意義アルモノニ非ラズ又基底ハ健康ノモ
ノニ於テハ鈍端ニ了レリ。

第二節及ビ第三節ニ於ケル末端ノ中央ハ僅ニ凹
ミ其兩隅ニ關節面ヲ現セリ、基底ハ平滑ナリ。掌骨
末端ハ蝌蚪ノ頭部ノ如クニ膨隆シ、中央部ハヤ、狹
隘トナレリ、三十歳以上ノ骨骸ノ遲シキ人ニ於テハ
往々小棘狀ノ突起ガ骨幹側面ニ生ズルヲ見ル。掌
骨ノ基底ノ境界ハヤ、不明ナリ殊ニ、尺骨側ノ隅角
ハ橈骨側ノ隅角ヨリモ銳シ。

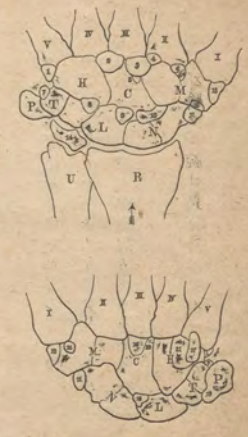
種子骨ハ通常第一掌骨ノ末端ニ於テ一箇又ハ二
箇現ル又其他第五掌骨ニ次ニハ第二掌骨ノ末端ニ

現ル、コト多シ。種子骨ノ存在ハ左右側必シモ同
一ナルモノニハ非ズ而シテ種子骨ハ他ノ骨ノ羸瘦
ニ陥リシ時ニ於テモ何等ノ關係ナキコトヲ特徴ト
ス異物ト區別ス可キハ其骨梁ノ在ルコトナリ。ダ
ラセイハ中指骨ノ第一節ノ基底ニ一箇ノ種子骨ア
リシ圖像ヲ氏ノ圖譜ニ掲載セリ。カ、ル稀有ノ種
子骨ノ存在ハ恰モ骨ノ小破碎片ト誤ル恐レアリ。
ブイッネル及ビスチーダニ由レバ種子骨ハ左ノ圖
ノ如ク各部位ニ現ル、モノナリト謂フ。



腕骨ハ通常八箇ナルモ時ニハ異常數ヲ有セリ、ダ
ラセイハ二十四歳ノ一男子ノ左手腕ニ於テ小多稜
骨及ビ舟狀骨トノ間ニ中心骨ノ存在セシヲ發見セ
リ。

フイッネルノ實驗セル腕骨異常數ノ一例アリ、左ノ
圖ノ如シ。



尺骨莖狀突起ハ通常外端ニ位セルモノナルガ若シ管球位置ノ外レシトキ、又ハ手腕廻轉位ニ於テ撮影セシ場合ニ於テハ莖狀突起ハ骨幹ノ中央ニ位セルコトヲ見ル。



1 大多稜骨
2 小多稜骨
3 小鈎骨
4 有鈎骨
5 舟狀骨
6 三稜骨
7 豆稜骨
8 種子骨
9 尺腕
10 尺腕
U 尺腕
R 尺腕

第十一表

第二十一圖

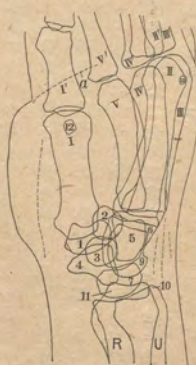
三十二歳ナル男子ノ右手腕側面撮影

側面像ヲ得シハ小指側ヲ乾板面ニ置キ、投射方向ヲ橈尺位トナス、注意ス可キハ橈骨ト尺骨トハ必ず正シク相重ル可キ位置ニ手腕ヲ安置スルヲ要ス、若シ手腕ガ背側ニ或ハ掌側ニ傾キ過グレバ橈尺二骨ハ相重ナラザル恐レナリ。側面像ニ於テハ骨ノ前後側ノ狀態ヲ詳ニシ得ル便アリ、例ヘバ橈骨骨折ニ於テ骨折端ハ掌側カ或ハ背側ニ轉移セルカヲ知ランニハ必ず此側面撮影ヲ行ハザル可ラス、從テ其轉移程度ガ橈尺二骨ノ相重ナラザル場合ニ於テハ明ニ知リ難シトス。

側面撮影ニ於テ橈尺方向ヲ以テ通常ノ撮影方式トス、拇指側ヲ下方ニナシタル橈尺方向ハ異常ノ術式トス。

橈尺方面ニ於テハ第一掌骨(ハ乾板ニ遠ルガ故ニ其陰影ハ擴大セラレ、且ツ鮮明ヲ缺ケリ、中指ノ掌

骨Ⅲハ最右方ニ第五掌骨Ⅴハ中央ニ第二掌骨ハ第三掌骨ト重リ第四掌骨Ⅳハ第五掌骨ノ右側ニソレゾレ所在ス。
側面撮影ニ於テ各腕骨ハ相重ナルガ故ニ各腕骨ノ境界ヲ知ルニ難シトス。



- | | | |
|--------|------------|-----------|
| 1 大多稜骨 | 9 三腕骨 | I 第一掌骨 |
| 2 小多稜骨 | 10 尺骨莖狀突起 | II 第二掌骨 |
| 3 豆状骨 | 11 腕骨莖狀突起 | III 第三掌骨 |
| 4 舟状骨 | 12 拇指種子骨 | IV 第四掌骨 |
| 5 有鈎骨 | 13 第三掌骨種子骨 | V 第五掌骨 |
| 6 小頭骨 | a 拇指球 | VI 第一指骨 |
| 7 月状骨 | | VII 第二指骨 |
| R 腕骨 | | VIII 第三指骨 |
| U 尺骨 | | IX 第四指骨 |
| | | X 第五指骨 |
- 拇指ノ外側ニ之ニ並行シテ描クル點線ハ小指側手掌面ノ境界ナリ。其他ノ點線ハ腕ノ走行セルモノナリ。

第十二表

第二十二圖

拇 指正面像

通常手掌ヲ乾板上ニ安置スルトキハ拇指ハヤ、外轉セルガ如キ位置ヲトルモノナレバ半バ外方ニ過轉セル撮影像ヲ得ルモノナリ(第二十圖參照)故ニ正面像ヲ得ンニハ砂囊上ニ拇指ヲ置キ他ノ四指ヲ砂囊ノ下ニ納レテ砂囊ヲ握ルガ如クナシ乾板手札型ヲ拇指下ニ納レ之ト密接セシム乾板ハ拇指球ノ所マデ深く入ル、可シ。



I 第二節
II 第三節
a 關節側緣
b 關節側緣

第二十三圖

拇 指側面像

拇指ノ正面像ニ於ケル關節部ハ側面ニ於テハa、
bノ如ク前後ニ重ナルモノトス境界ノ鮮明ナルモ
ノハ乾板ニ近キモノニシテ乾板ヲ離レタルモノハ
ヤ、不鮮明トナレリ。



1 爪

b a 關節側緣

レントゲン寫眞圖譜第一輯解説 終

大正七年六月四日印刷

第一輯

大正七年六月八日發行

正價金四圓五拾錢

著 者 藤 浪 剛



發行者 大 柴 四 郎
東京市神田區通新石町九番地

寫眞 調製者 市 村 駒 之 助
東京市神田區漆師町五番地

印刷者 守 岡 功
東京市本所區番場町四番地

印刷所
東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

東京市神田區通新石町九番地

發行所

朝 香 屋 書 店

電話神田二二三番
振替東京二四三番

醫學博士 藤浪剛一著

光と生物

光は生物の母なり、然るに光
の方が不斷的にして又普遍的な
るを以て何人もこの光力の微妙
なる作用に就て究むるもの從來

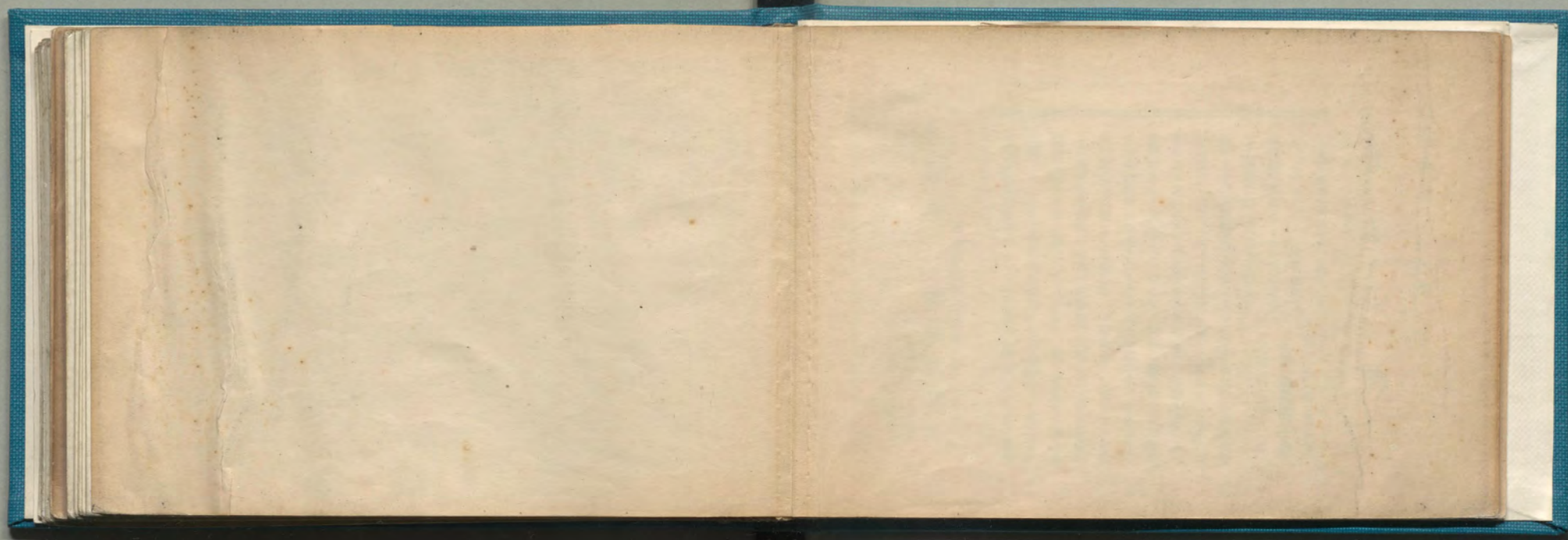
四六版全一冊美裝
正價金壹圓四十錢
小包料金八錢

渺かりき、軌近科學の進歩によりて産める光の生物的作用
が研究せられて、益々光の遠力に驚くに到れり、吾人日常
光の恩澤に浴するものには此の光の活力の如何を審にすべ
き務めありと謂はざるべからず、本邦の讀書界に未だ如斯
光の生物的作用を説きたる著者あるを聞かず。本書は實に
此の缺落を補償はんとせる唯一の好書にして筆を光の性状
より説き始め動物、植物、微生物、人類に及ぼせる科學的
關係を最も平易に説明したるが故に、何人と雖も了解し易
き且つ之によりて科學的生物的の智識を獲ること明かなれ
ば臨床醫家の好資料として行住座臥に携ふべき良益の著書
たりと謂ふべし。

東京市神田區通新石町九番地

發行所 朝香屋書店

電話神田二二三番
振替東京二四三番



Dr. K. Furukawa

Shōka 2 Pl. 13



Pl. 24

Dr. K. Furukawa

Series 2 Pl. 14



Pl. 2 5



Dr. K. Fujimori

Serial 2 Pl. 15



Pl. 26



Pl. K. Fijian

Series 2 Pl. 16



Fig. 27



Dr. K. Fujimori

Serial 2 Pl. 17



Pl. 28

Dr. K. Fujikawa

Serial 2 Pl. 18

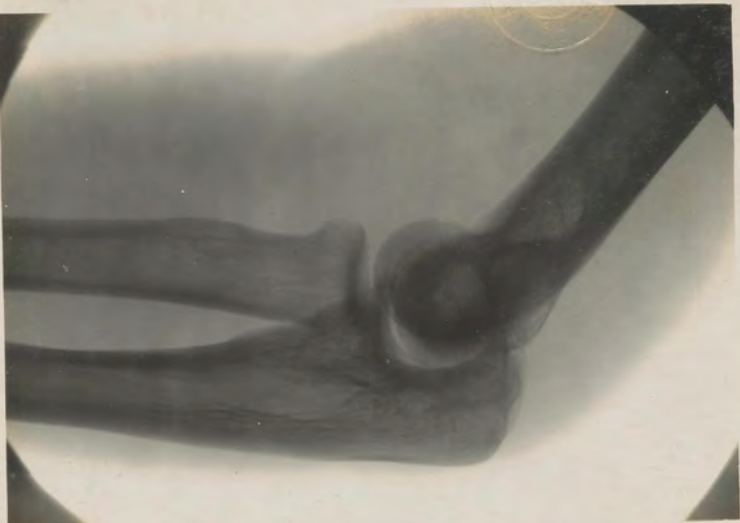
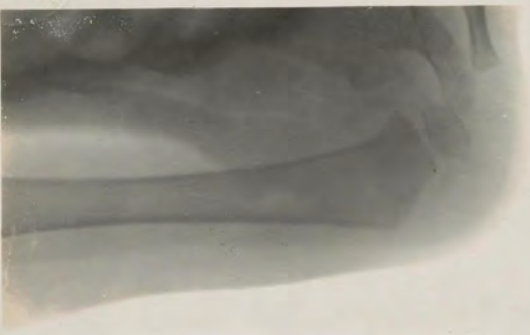


FIG. 20



Dr. K. Fujimori

Series 2 Pl. 19



Pl. 30





Dr. K. Fujimori

Series 2 Pl. 20

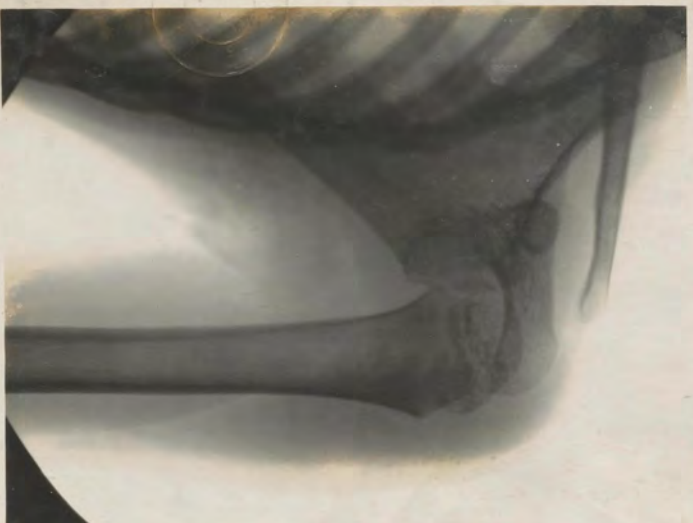


Pl. 21



Dr. K. Fujimori

Series 2 Pl. 21



Pl. 22

Dr. K. Fujisaki

Serial 2 Pl. 22

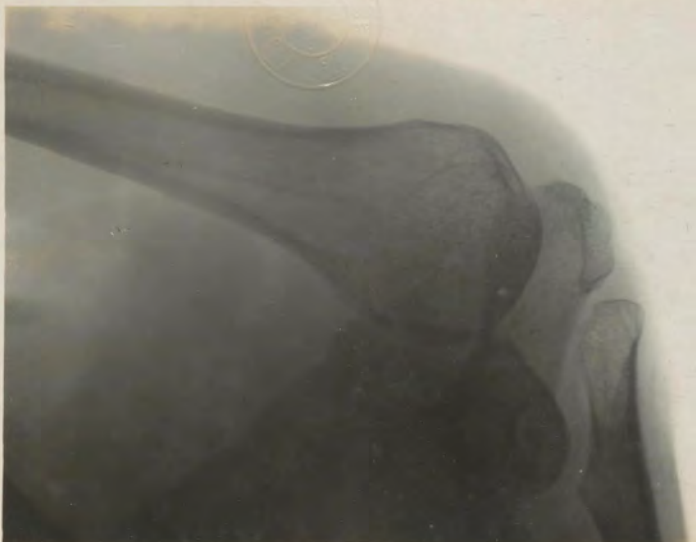


Fig. 23

Dr. K. Fujimori

Serial 2 Pl. 23



Pl. 34

Dr. K. FUJIMORI

SERIAL 2 PL. 24



Fig. 35



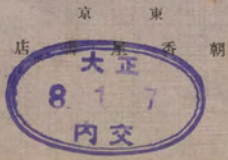
49-72



著一剛浪藤上博學醫

譜圖眞寫ンゲトンレ

冊一第



レントゲン寫眞圖譜 第二輯

目次

第十三表

第二十四圖 五歳ノ男子ノ右肘關節 (正面撮影)

第十四表

第二十五圖 十一歳ノ男子ノ左肘關節 (正面撮影)

第十五表

第二十六圖 同上 (側面撮影)

第十六表

第二十七圖 二十五歳ノ男子ノ右肘關節

(正面撮影)

第十七表

第二十八圖 同上

(側面撮影)

第十八表

第二十八圖 三十歳男子ノ右肘關節 (側面撮影)

第十九表

第二十九圖 二歳ノ女子ノ右肩胛

第二十表

第三十圖 三歳ノ男子ノ左肩胛

第二十一表

第三十一圖 六歳ノ男子ノ右肩胛

第二十二表

第三十二圖 二十六歳ノ男子ノ左肩胛

第二十三表

第三十三圖 三十歳ノ男子ノ左肩胛

第二十四表

第三十四圖 三十歳男子ノ左肩胛

以上

レントゲン寫眞圖譜第二輯解説

醫學博士 藤 浪 剛 一 著

第十三表

第二十四圖

五歳ノ男子ノ右肘關節(正面撮影)

本圖ヲ第五表第十三圖第一輯第三歳ノモノニ比セハ一見大差無キガ如シト雖上膊骨小頭核²ハ著シク増大シ且ツ又外上顆ノ骨幹端ハ眞截セル緣端トナリ、内上顆部ハ強ク穹窿ヲ帶ベリ。其他尺骨ニ於テハ鳥喙突起³ガ明ニ現出シ、半月狀截痕⁵下ノ境界ヲ劃スルニ至レリ。其他ニ於テハ前者ニ比シ未ダ特記スベキ變化ヲ呈セズ。

第十四表

第二十五圖

十一歳ノ男子ノ左肘關節(正面撮影)

本兒ニ於ケル肘關節領域ノ各骨ニハ多數ノ骨核ガ發現セリ。即チ上膊骨Hニ於テハ前記ノ小頭核(2)ノ他滑車核(4)内上顆核(3)ノ三核現レ又腕骨Rニ於テハ腕骨小頭核10(方尺骨U)ニ於テハ鷹嘴突起核(6)ガ現レ未ダ現レザルモノハ外顆核ノミナリ。尺骨鷹嘴突起ハ著シク發育シ正面撮影ニテハ此部ハ上膊骨端ヲ起ヘ鷹嘴窩1ノ附近ニマデ達シ上膊骨ト重合セルガ故ニ滑車核(4)及ビ鷹嘴突起核(5)ハ他ノ骨影ニ蔽レ且ツ猶此二核ノ形狀小ナレバ往ニシテ之ヲ雲烟過眼視スルコトアリ注意セザル可ラズ。

十一歳乃至十三歳ニ至レバ肘關節骨端核ノ化骨狀態ハ大ニ進捗シ外上顆核モ現レ恰モ骨折片ノ如キ觀ヲ呈シ骨端軟骨線ハ狹隘粗糙トナリ滑車核ノ周界ハ劃然タラザルカ故ニ此場合ノ所見ヲ以テ骨折ト誤ルモノ少カラズ。十四五歳ニ至レバ滑車核

- | | | | |
|---|------|---|-------|
| 1 | 鷹嘴窩 | 5 | 半月狀截痕 |
| 2 | 小頭骨核 | 6 | 鷹嘴突起 |
| 3 | 鳥啄突起 | 7 | 腕骨骨幹端 |
| 4 | 腕骨結節 | 8 | 骨槓 |
| H | 上膊骨 | R | 腕骨 |
| U | 尺骨 | | |

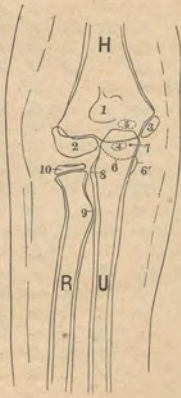


小頭核内外兩上顆ハ互ニ癒合シテ一大骨端核トナ
リ骨幹縁ト僅ニ離ル即チ軟骨縁ハ細クナレリ而テ
此等癒合セル骨核ノ游離縁ハ平滑ニシテ將來ノ完
成型ヲ呈シソレゾレノ固有形態ヲ帶ベリ。
尺骨鷹嘴突起核(5)ハ通常一箇ナルモ時ニハ二箇
ナルコトアリ此核ハ側面撮影像ニ於テ能ク之ヲ了
解シ得。

橈骨ノ小頭核(10)ハ扁平核ナリ始メ中央ニ位スレ
ドモ漸次廣徑ヲ増加シテ骨幹端ノ廣サト其大ヲ同
ジクス。本兒ノ小頭骨核ニハ既ニ關節面ヲ形成セ
リ。

肘關節領域ニ於ケル各骨核ノ現出期ニ就テ未ダ
邦人ノ調査報告ナキヲ以テウィスネル(Wisner)ウ
イルムス(Wilms)ノ報告ヲ參考ニ供セントス。

骨 名		發 生 期
上膊骨小頭核		二歳半
橈骨小頭核		六歳—七歳
内上顆		八歳—九歳
鷹嘴突起核		九歳—十歳
滑車核及ヒ外上顆核		十歳—十三歳
癒合期		十九歳



- | | |
|------------|------------|
| 1 鷹嘴窩及ヒ前上窩 | 6' 烏啄突起ノ外縁 |
| 2 上膊骨小頭核 | 7 半月狀截痕 |
| 3 内上顆核 | 8 尺骨結節 |
| 4 滑車核 | 9 橈骨結節 |
| 5 鷹嘴突起核 | 10 橈骨小頭 |
| 6 烏啄突起 | |
| H 上膊骨 | R 橈骨 |
| U 尺骨 | |

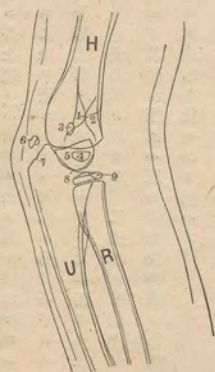
第十五表

第二十六圖

同上 (側面撮影)

側面像ニ於テハ、鷹嘴窩¹及ビ前上窩²ノ形狀ヲ明カニ知ル。兩窩底ヨリ上方ニ向ヒ三條ノ線ガ分枝行走セルハ、窩底ヨリ上方ニ向ヒ骨ガ漸次移行セルヲ示スモノナリ。後縁ハ強ク突隆セリ。

又側面像ニ於テハ半月狀截痕⁸ガ鮮明ニ現レ、鷹嘴突起核⁶ヲ見ル。同核ハ通常一核ナルモ、往々二箇ナルコトアリ。此場合ニ於テ一核ハ基部ニ、他核ハ尖端ニ在リ。同核ノ游離縁ハ平滑ナレドモ、骨幹對側縁ハ凸凹不平ニシテ、核ノ發育ト共ニ益々粗糙トナリ。又鷹嘴突起骨幹縁モ之ニ準ジテ粗糙トナレルガ故ニ、此骨核ヲ骨折片ト誤レルコト少カラズ。



- | | |
|----------|-----------|
| 1 鷹嘴窩 | 6 鷹嘴突起核 |
| 2 前上窩 | 7 鷹嘴突起骨幹縁 |
| 3 内上顆核 | 8 半月狀截痕 |
| 4 滑車核 | 9 腕骨小頭核 |
| 5 上膊骨小頭核 | |
| H 上膊骨 | R 腕骨 |
| U 尺骨 | |

第十六表

第二十七圖

二十五歳ノ男子ノ右肘關節(正面撮影)

各骨ノ骨核ト骨幹トハ全ク癒合シ兩者ノ境界痕ダニ知ルコト能ハズ。上膊骨(1)中央ニ於テ半月狀ノ明白部(1)ヲ見ル所アリ、此ハ髁窩及ビ前上窩ニ相當セルモ前上窩ハ其上半ヲ尺骨髁突起(6)ニ隱蔽セラル。内上顆(2)ハ著シク突隆シ其周縁平滑ナルニ、外上顆(3)ハ前者ノ如ク強ク突出セザルモ重複セル周縁ヲ呈セリ、是レ同縁ハ凸凹不平ナルヲ以テ其骨影相重レルナリ。小頭(5)及ビ滑車ノ縁ハ平滑ニシニ波濤狀ヲ成セリ。又滑車ノ内隅ノ一部ハ突出セリ、尺骨神經溝ハ正シク此突出部ノ内側ニ在レドモ其陰影ヲ見ルコト能ハズ。

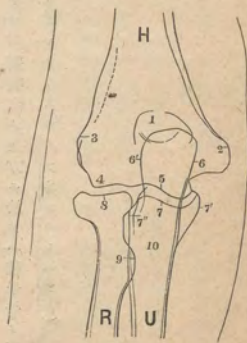
外上顆ノ上部即チ外隅ハ内隅ニ比シテ緻密質ノ陰影ノ密ナラザルハ、是レ外上顆ノ上方及ビ外隅ハ廣ク且ツ菲薄ナルモノナレバナリ。

上膊骨ト橈骨及ビ尺骨トノ關節間腔ハ細帶狀ヲ

呈シ何レノ處ニテモ廣徑ヲ同ジクス。

尺骨ノ烏喙突起(7)ハ強ク外方ニ突出シテ波狀ヲ呈シ内側ハ橈骨截痕(7)ニ相接セリ。橈骨截痕(7)モ亦明カニ現ル。尺骨結節(10)ハ唯陰影濃密ナル班トシテ橈骨截痕ノ内下方ニ現ルノミ。髁窩突起ノ兩側縁(6)ハ竝行シテ下走シ烏喙突起(7)ノ波形陰影ヲ遮斷シテ骨幹ニ移行ス。過後筋槽ハ此移行セル線狀陰影ニ相一致セルモ、特ニ獨立セル陰影ヲ作ラズ。

橈骨ニ於テハ橈骨結節(9)ガ尺骨ト相重ルヲ見ルモノナリ。髁窩ノ上方ニ於テハ種子骨ノ所在セルコト稀レナラズ(フイツネル、キンベツク)。



- | | | | |
|-----|----------|-----|---------|
| 1 | 鷹嘴窩及上前上窩 | 7'7 | 烏啄突起 |
| 2 | 内上顆 | 7' | 腕骨截痕 |
| 3 | 外上顆 | 8 | 腕骨小頭關節面 |
| 4 | 小頭 | 9 | 腕骨結節 |
| 5 | 滑車 | 10 | 尺骨結節 |
| 6'6 | 鷹嘴突起 | | |
| H | 上膊骨 | R | 腕骨 |
| U | 尺骨 | | |

第十七表

第二十八圖

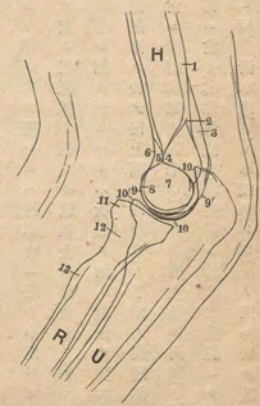
同上 (側面撮影)

肘關節ノ側面撮影ニハ尺骨側ヲ乾板上ニ置クヲ常トス之ニ反シテ腕骨側ヲ乾板上ニ置クハ不自然ノ體位ナルヲ以テ行ハズ。而シテ肘關節ノ側面像ハ殊ニ上膊骨各部ノ陰影相重リテ複雑トナレリ。正シキ側面像ヲ獲シニハ撮影時ニ於テ小頭及ビ滑車ヲ貫ク鉛直線ガ正シク乾板上ニ直角ナラザル可ラズ。若シ然ラザルトキハ次圖ノ如キ形像ヲ呈ス。

側面像ニ於テ内上顆ハ内隅2ノ下部ノ突隆部ニ相當シ。鷹嘴突起ノ尖端10ト重リ。外上顆ハ外隅3ノ下部ニ當リ。其陰影淡シ模型圖ニ於テ二重線ニテ描ケル所。滑車緣8ト小頭緣9'トノ間ニ於テ重複ノ線影ヲ呈セルハ滑車ノ凹底及ビ滑車ト小頭トノ境界ノ穹窿部ニ相當セルモノナリ。

半月狀截痕10'ノ經過ハ明ニ知リ得レドモ、腕骨截痕ハ他ノ骨部ニ蔽レテ發見シ能ハズ。烏啄突起

(10')ハ強ク突起シ其下方ハ尺骨結節ト連接ス該部ハ緩カニ穹窿セリ。
 橈骨小頭(11)ハ殆シド其三分ノ二ヲ尺骨ニ隱蔽セラル。



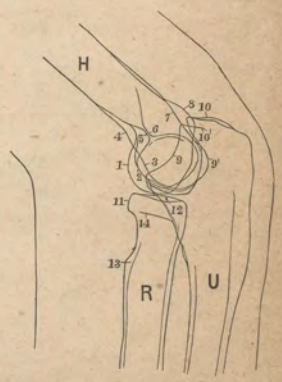
- | | | | |
|-----|-----------|-----|------------|
| 1 | 上脛骨後面ノ緻密質 | 10 | 鷹嘴突起及ビ半月狀痕 |
| 2 | 内隅 | 10' | 鳥喙突起 |
| 3 | 外隅 | 11 | 橈骨小頭 |
| 4 | 鷹嘴窩 | 12 | 頸部 |
| 5 | 前上窩 | 13 | 橈骨結節 |
| 6 | 前隅 | H | 上脛骨 |
| 7 | 滑車 | R | 橈骨 |
| 8 | 滑車周縁 | U | 尺骨 |
| 9'9 | 小頭周縁 | | |

第十八表

第二十八圖

三十歳男子ノ右肘節側面撮影

本圖ニ於テハ前膊ヲ稍外轉セル位置ニ於テ撮影セシガ故ニ小頭(1)及ビ滑車(2)ハ相離レ半月狀關節面(9'9)ハ廣ク現レ鷹嘴突起(10'10)モ亦廣ク現ル。
 橈骨小頭(11)ハ僅ニ四分ノ一ヲ尺骨ニテ被ルノミ。



- | | | | |
|---|---------|-----------|---------|
| 1 | 小頭 | 8 | 外隅 |
| 2 | 滑車 | 9'-9 | 半月狀截痕及ビ |
| 3 | 滑車ノ凹底 | | 其關節面 |
| 4 | 前隅滑車凹底ト | | 嚙嘴突起ノ尖端 |
| | 連レリ | 11 10'-10 | 腕骨小頭 |
| 5 | 前上窩 | 12 | 小頭關節面 |
| 6 | 嚙嘴窩 | 13 | 腕骨結節 |
| 7 | 内隅 | 14 | 頸部 |
| H | 上膊 | R | 腕骨 |
| U | 尺骨 | | |

第十九表

第二十九圖

二歳ノ女子ノ右肩胛

上膊骨幹端ハヘ字形ニ突出シ(10, 11)其内緣(10)ハ小
 ク外緣(11)ハ廣シ而シテ内緣ハ貝殻狀ノ骨核(9)ト對
 向セリ此骨核ハ上膊骨頭ニ相當セルモノナリ。
 上膊骨々端ニハ骨頭核ノ他大結節及ビ小結節ノ兩
 骨核現ルルモノナルガ本兒ニ於テハ未ダ之ヲ見ズ。
 大結節骨核ハ骨頭核ト相隣シテ現レ上膊骨幹緣(11)
 ト相對シ小結節骨核ノ所在位置ハ恰モ骨幹ニ蔽ル
 ハガ故ニ之ヲ視ル時機ナシ。而シテ本兒ノ上膊骨
 上部ノ化骨ハ未ダ著シク進拂セザルヲ以テ肩胛關
 節窩(4)トハ著シク離レリ。
 鎖骨(1)ニ於テハ骨端核ヲ發生セズ。
 肩胛骨ニ於テハ肩峰突起(2)ノ骨核ヲ生スルモノ
 ナルガ本兒ニ於テハ未ダ之ヲ見ズ。



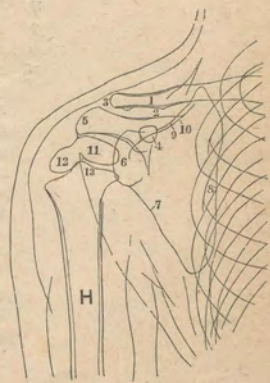
- | | | | |
|---|--------|-------|-------|
| 1 | 鎖骨 | 6 | 肘骨 |
| 2 | 肩峰突起 | 7 | 肩胛骨外隅 |
| 3 | 鳥喙突起 | 8 | 肩胛棘 |
| 4 | 肩胛骨關節面 | 9 | 上膊骨頭核 |
| 5 | 肩胛骨翼 | 11-10 | 上膊骨幹端 |
| H | 上膊骨 | | |

第二十表

第三十圖

三歳ノ男子ノ左肩胛

前圖ニ比シテ注意スベキハ上膊骨頭ノ變化ナリ。
大結節(12)ハ既ニ出現シテ骨頭核(11)下相癒合セリ。
兩者ノ癒合部ハ上下端共ニ窪ミテ將來ノ解剖頸ヲ
作ルベキ形態ヲ呈セリ。骨幹線ノ中央ハ凸リテ傘
狀トナリ骨端線ハ大ニ狭レリ。小結節(13)ノ陰影鮮
明ナラズ。

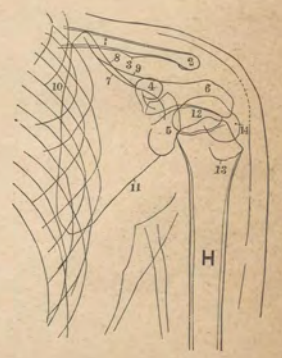


- | | |
|---------|----------|
| 1 鎖骨 | 8 肩胛骨内隅 |
| 2 肩胛結節 | 9 肩胛骨上隅 |
| 3 鎖骨ノ外端 | 10 肩胛骨棘 |
| 4 鳥啄突起 | 11 上膊骨頭核 |
| 5 肩峰突起 | 12 大結節 |
| 6 關節面 | 13 小結節 |
| 7 肩胛骨外隅 | H 上膊骨 |

第二十一表

第三十一圖

六歳ノ男子ノ右肩胛
本圖ヲ前圖ニ比セバ大結節(14)ノ増大セシヲ見ル
ノ他猶其下端ニ於テハ恰モ弧狀ニ截斷セラレタル
部ヲ見ル(13)此ハ大結節ガ下方ニ向ヒ斜ニ發育セル
ガ故ニ之ニ對スル骨幹端モ斜トナリ其一端ハ弧狀
ヲ呈シテ此廣キ面ヲ現セシモノナリ又其上部ハ大
結節ト重リ陰影濃厚トナレリ。



- | | |
|---------|-----------------|
| 1 鎖骨 | 9 肩胛棘上縁 |
| 2 外端 | 10 内隅 |
| 3 肩胛結節 | 11 外隅 |
| 4 烏喙突起 | 12 上膊骨頭核 |
| 5 關節窩 | 13 大結節核ト骨幹トノ接合面 |
| 6 肩峰突起 | 14 大結節核 |
| 7 肩胛棘下縁 | |
| 8 上隅 | |

第二十二表

第三十二圖

二十六歳男子ノ左肩胛

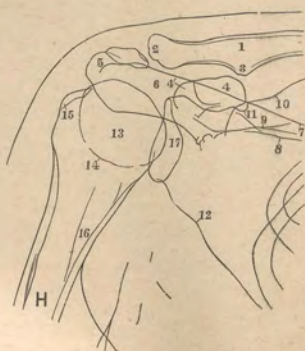
鎖骨ノ外端(2)ト肩峰突起(5)トハ生理的ニモ多少ノ間隔ヲ有スルモノニシテ肩峰突起ノ尖端ニ線狀陰影ヲ現セルハ關節面ヲ示セルナリ。肩峰突起端ニハ骨核ヲ生スルモノナレハ此骨核ヲ骨折片ト誤ル可ラズ大人ニ於テハ其癒合線ノ陰影ヲ殘セリ。烏喙突起(4)ノ起首部(4')ノ影像ハ之ヲ實物ニ比セバ短縮セリ是レ放射ノ方向ヨリ生ゼルモノニシテ肩胛關節窩面ノ廣キ程此突起ノ像影ハ矮小ニ弱ス。上截痕(11)ハ往々ニシテ肩峰突起ト離レテ現ルルコトアルモ頸截痕ハ烏喙突起ノ爲ニ蔽レテ現出セズ。關節窩(17)ハ茄子狀ヲ呈シ放射ノ方向ニヨリテ關節面ハ或ハ廣ク或ハ狭ク現レ又上膊骨々頭(13)モ或ハ此等骨影面ヲ被ヒ或ハ僅ニ蔽フコトアリ或ハ全ク之ト離ルルコトアリ。關節窩下結節ハ緩カナル波狀ヲ呈セリ。

肩胛骨ノレントゲン像ニ於テ肩峰突起ノ起首部

ヨリ肩胛棘ノ上縁7(下縁8)ノ間ニ於テ互ニ交
又セル太キX狀ノ線影9ヲ見ル、コハ棘上窩及ビ棘
下窩ノ基底ガ互ニ茲ニ上下ヨリ狭マリ、其境界ガ遼
ニハ殆ンド密接セルヲ以テX狀ノ觀ヲ呈セルモ實
ハX狀ヲ呈シ交又セザルモノナリ。肩胛骨外隅ハ
肥厚セルガ故ニ陰影濃度ナリ。肩胛翼ヲ横走セル
數條ノ豐隆線ノ陰影ハ通常現レズ。

上膊骨々頭13ハ球形ヲ呈シ外縁ハ大結節15ト連
接シ解剖頸14ハ細條トシテ現ル、小結節ハ他部ニ被
レテ其陰影ヲ認メ難シ。粗糙部16ハ骨ノ中央ヲ貫
通セリ、其左方三角形ノ淡キ部ハ結節間溝ナリ。

肩胛部ヲ撮影ニスルニハ二様ノ目的ヲ有ス。一
ハ肩胛關節部ヲ主眼トセルモノ、二ハ肩峰突起、鎖骨
外端、烏喙突起ヲ重視スルモノナリ、從テ其撮影式ヲ
異ニスルナリ。



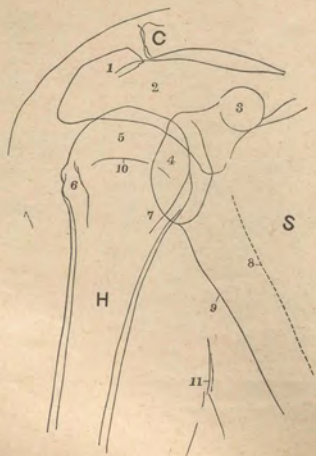
- | | |
|---------------|---------|
| 1 鎖骨 | 10 上隅 |
| 2 外端 | 11 肩胛截痕 |
| 3 肩胛結節 | 12 外隅 |
| 4 烏喙突起 | 13 上膊骨頭 |
| 4' 烏喙突起首部 | 14 解剖頸 |
| 5 肩峰突起 | 15 大結節 |
| 6 肩胛棘 | 16 粗糙部 |
| 7 棘上縁 | 17 關節窩 |
| 8 棘下縁 | H 上膊骨 |
| 9 棘上窩及ビ棘下窩ノ基底 | |

第二十三表

第三十三圖

三十歳ノ男子ノ左肩胛

通常肩胛骨ヲ撮影スルニハ仰臥位ニ於テナスモノナルガ本圖ハ腹位ニ於テ撮影シタルモノナリ。此場合ニ於テハ肩胛骨ハ乾板ト違ザカルヲ以テ其影像前者ニ比セバ鮮明ナラズ。



- | | | | |
|---|--------|----|-----------|
| 1 | 肩峰突起尖端 | 7 | 粗嚙部 |
| 2 | 肩峰突起 | 8 | 肩胛骨外隅ノ肥厚部 |
| 3 | 鳥喙突起 | 9 | 外隅 |
| 4 | 肩胛關節窩 | 10 | 骨端癒合線 |
| 5 | 上膊骨頭 | 11 | 腋窩 |
| 6 | 大結節 | H | 上膊骨 |
| C | 鎖骨 | S | 肩胛骨翼 |

第二十四表

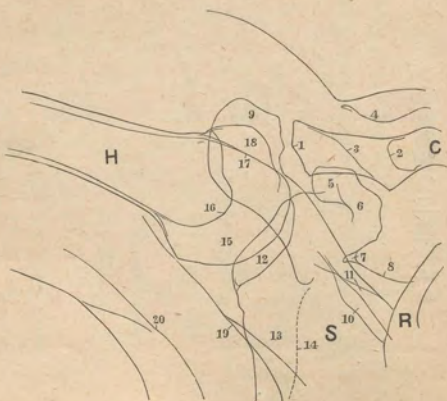
第三十四圖

三十歳男子ノ左肩胛

本圖ハ上膊骨ヲ舉上外轉セル位置ニ於テ撮影セ
シモノナリ此位置ニ於テ肩峰突起(9)ハ著シク外方
ニ延長シ上膊骨頭(15)ヲ被ヘリ。
上膊骨ニ於テハ小結節(18)ガ現レ大結節(17)ハ他ノ
場合ト異リテ他骨ニ被ルルナリ。

R	C	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
肋	鎖	窩	肩	肩	上	烏	烏	鎖	鎖			
骨	骨	ノ	胛	峰	膊	喙	喙	骨	骨			
		基	上	突	隔	突	突	上	ノ			
		底	窩	起		起	起	窩	骨			
			及	下		部	部	緣	緣			
			下					皮	線			
								膚				

S	H	20-19	18	17	16	15	14	13	12
肩	上	腋	小	骨	上	外	外	關	
胛	膊	窩	大	端	膊	隔	隔	節	
骨	骨	ノ	結	線	骨	肥	窩		
		皮	節	部	骨	厚			
		膚		頭	頭				



レントゲン寫眞圖譜第二輯解説終

大正七年十一月一日印刷
大正七年十一月四日發行

第二輯

正價金四圓五拾錢

著者 藤浪剛一

發行者 大柴四郎
東京市神田區通新石町九番地

調製者眞市村駒之助
東京市神田區漆師町五番地

印刷者 守岡功
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所

朝香屋書店

東京市神田區通新石町九番地
電話神田二二三番
振替東京二四三番

醫學博士 藤浪剛一 著

光と生物

光は生物の母なり、然るに光の力が不斷的にして又普遍的なるを以て何人もこの光力の微妙なる作用に就て究むるもの從來

渺かりき、最近科學の進歩によりて産める光の生物的作用が研究せられて、益々光の遠力に驚くに到れり、吾人日常光の恩澤に浴するものには此の光の活力の如何を審にすべき務めありと謂はざるべからず、本邦の讀書界に未だ如斯光の生物的作用を説きたる著者あるを聞かず。本書は實に此の缺落を補償はんとせる唯一の好書にして筆を光の性状より説き始め動物、植物、微生物、人類に及ぼせる科學的關係を最も平易に説明したるが故に、何人と雖も了解し易き且つ之によりて科學的生物的の智識を獲ること明かなれば臨床醫家の好資料として行住塵臥に携ふべき良益の著書たりと謂ふべし。

四六版全一冊美裝
正價金壹圓四十錢
小包料金八錢

發行所

朝香屋書店

東京市神田區通新石町九番地

電話神田二二三番
振替東京二四三番

Dr. K. FUJIMORI

SERIAL I. PL. 1



FIG. 1



FIG. 2



FIG. 3



FIG. 4



FIG. 5



FIG. 6



FIG. 7

Dr. K. F. F. F.

Small. Pl. 2



Pl. 2

Dr. K. FUJIMORI

SERIAL I. PL. 3



Fig. 9



Fig. 10



FIG. 11



FIG. 12

Dr. K. Fujimori

Shimizu, Pl. 3

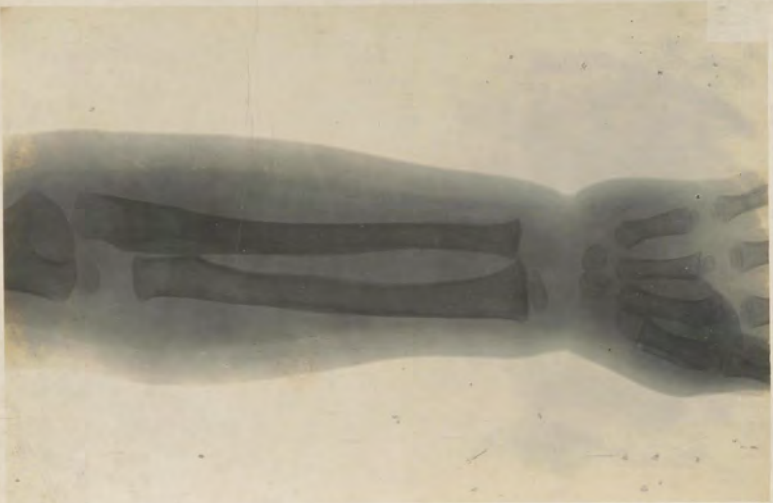


Fig. 10



FIG. 14



FIG. 15

DR. K. FUJIMORI

SERIAL I. PL. 7



Fig. 16



Fig. 17

Dr. K. Fujimori

Serial 1 Pl. 8



Pl. 8

Dr. K. P. P. P.

Small 1 Pl. 9



Pl. 10



Fig. 20

Dr. K. Fournier

Seriat. Pl. 20

Dr. K. Furukawa

Shizuoka, Pa. II



Fig. 21

Dr. K. FUJIMORI

SERIAL I. PL. 12



FIG. 22



FIG. 23

9,368

301215

著 一 剛 浪 藤 士 博 學 醫

レ ン ゲ ト 寫 眞 圖 譜

== 第 三 輯 ==

京 東

店 書 屋 香 朝

レントゲン寫眞圖譜 第三輯

目次

第二十五表

第三十六圖 生後三日ノ男子ノ左足 (正面撮影)

第二十六表

第三十七圖 三歳七ヶ月ノ男子ノ右足(正面撮影)

第二十七表

第三十八圖 三歳ノ男子ノ右足 (側面撮影)

第二十八表

第三十九圖 十歳ノ女子ノ左足 (正面撮影)

第二十九表

第四十九圖 十一歳ノ男子ノ右足 (側面撮影)

第三十表

第四十一圖 十三歳五ヶ月ノ男子ノ左足

(側面撮影)

第三十一表

第四十二圖 十六歳ノ女子ノ左足關節(正面撮影)

第三十二表

第四十三圖 二十五歳ノ男子ノ右足關節面

(側面撮影)

第三十三表

第四十四圖 三十五歳ノ左足趾

(正面撮影)

第三十四表

第四十五圖 三十歳ノ男子ノ左足趾 (正面撮影)

第三十五表

第四十六圖 大人ノ右足趾 (側面撮影)

第三十六表

第四十七圖 跟骨單獨撮影像

レントゲン寫眞圖譜第三輯解説

醫學博士 藤 浪 剛 一 著

第二十五表

第三十六圖

生後三日ノ男子ノ左足(正面撮影)

本兒ニ於テ現レ居ル骨ハ、各趾骨、各趾骨ノ骨幹、跗骨及ビ距骨ノ兩骨核ノミナリ。跗骨(1)及ビ距骨(2)ノ兩骨核ノ發生ハ胎兒ニ於テ見ルモノニシテ、恰モ手腕骨ノ小頭骨、有鈎骨ノ兩骨核ガ生後既ニ現レ居ルト同一ノ關係ナリ。彼ニ比シテ此者ノ大サハ遙ニ大ニシテ、跗骨々核(1)ハ不正長圓形ヲ呈シ、其中央ノ陰影ハ特ニ濃度ナリ。距骨(2)ハ圓形ヲ呈シ中央ノ兩側僅ニ凹メリ。

脛骨(T)及ビ腓骨(F)ノ骨幹端ハ鈍ク突隆セリ。趾骨、趾骨ノ遠心端ハ隆起シ、近心端ハ跗趾側ヲ除クノ他、何レモ直截狀ヲ呈セリ。他ノ足根骨ノ骨核ノ發生ハ次圖ニ於テ詳記ス可シ。

F	V	IV	III	II	I	1
腓骨	第五跖骨	第四跖骨	第三跖骨	第二跖骨	第一跖骨	跟骨及核

T	V'	IV'	III'	II'	I'	2
脛骨	第五趾骨列	第四趾骨列	第三趾骨列	第二趾骨列	第一趾骨列	距骨及核



第二十六表

第三十七圖

三歳七ヶ月ノ男子ノ右足(正面像)

本兒ニ於ケル足根骨ノ各骨核ハ、舟狀骨ヲ除ク他ハ悉ク現出セリ、即チ跟骨(1)、距骨(2)、骰子骨(3)、第三楔狀骨(4)、第二楔狀骨(5)、第一楔狀骨(6)、脛骨骨端核(7)及ビ腓骨骨端核(8)ナリ。

趾骨ニ於テハ第一趾骨ノ近心端骨端核(9)現レリ、此核ハ通常一個ナレドモ時ニハ二個ナルコトアリ(例ヘバ本兒ニ於テ)。趾骨ニ於テハ第五趾骨列全部、第二第三及ビ第四趾骨ノ末節、及ビ跖趾第一節ヲ除キ、他ノ趾骨ニハ何レニモ鏡餅狀ノ骨核ノ發生ヲ見ルナリ。

趾骨第一列ノ遠心端ニ於テ恰モ山嶺ノ如キ陰影(11)ヲ見ル、コハ足趾ノ皮膚ノ皺襞ニシテ足趾ト足趾トノ境界ナリ。

足根骨ノ各骨核ノ發生列ハ手根骨ニ比セバ殆ント一定セリ、即チ左ノ次第ヲ以テ現ル。

	通常發 生期	早發期	遲發期	備 考	完成型 期
眼骨々核	胎生期	ナシ	ナシ		第七歳
距骨々核	胎生期	ナシ	ナシ		第七歳
骰子骨々核	生後第三ヶ月	ナシ	ナシ		第九歳
第三楔狀骨核	生後第八ヶ月	ナシ	ナシ		第七歳
距骨下端骨核	生後第八ヶ月	ナシ	ナシ		第九歳
腓骨下端骨核	生後第九ヶ月	ナシ	ナシ	早發ハ多シ 遲發ハ稀	第九歳
第一楔狀骨核	第一歳六ヶ月	第二歳	第三歳五ヶ月	早發ハ多シ 遲發ハ稀	第八歳
第二楔狀骨核	第二歳始メ	ナシ	第四歳三ヶ月	遲發ハ少シ	第七歳
舟狀骨々核	第三歳七ヶ月	第三歳三ヶ月	第五歳六ヶ月	早發ハ稀 ナリ遲發ハ多シ	第七歳

趾骨及ビ趾骨ノ骨幹ハ胎生期ニ於テ既ニ發生ス
レドモ骨端骨核ハ生後ニ現ル、ナリ。一般ニ趾骨
ノモノ早ク、趾骨ノモノ遅シ。

趾骨ノ骨端核ハ第一歳五ヶ月ヨリ第四歳十一ヶ
月ノ間ニ現ル、第一節列第二節列及ビ第三節列ノ順
序ヲ以テ現ル、コトハ殆ンド稀レニシテ、多クハ第
一節ノ何レカト第二節ノ何レカトガ先ヅ現ハル、
カ、或ハ第一節ノ或ルモノト第三節ノ或ルモノトガ
同時ニ現ル、カノ如キ頗ル複雑ノ發現次第ヲ呈シ、
一定ノ規矩ヲ求メ難シ。

臆骨ニ於テハ附側ヨリ第二臆骨ニ向ヒ順序ニ現
ル、モノニシテ第一臆骨々端核ハ第二歳ノ始メニ
於テ、第二及ビ第三臆骨ハ第二歳十ヶ月ニ於テ、第四
臆骨ハ第五歳ノ了リニ於テ、第五臆骨ハ第六歳ノ半
バ頃ニ於テ現レ、第十五歳ノ始メニ於テ骨幹ト癒著
スルナリ。



1 跟骨

2 距骨

3 骰子骨

4 第三楔狀骨

5 第二楔狀骨

6 第一楔狀骨

7 腓骨下端骨端核

8 脛骨下端骨端核

9 第一趾骨々端核

10 趾骨々端核

11 皮膚皺襞

I 趾骨列

I' 趾骨列

F 腓骨

T 脛骨

a 皮下脂肪層

點線ハ皮下脂肪層ノ境界ナリ。

第二十七表

第三十八圖

三歳ノ男子ノ右足(側面撮影)

側面撮影像ニ於テハ足根部ノ各骨核ノ形狀ヲ窺フニ足レリ。即チ跟骨(1)ニ於テハ前半部小ニシテ、後半大ナル長形ヲ呈シ、前半部ノ上面ニ於テ凹窪セル所(a)アリ、此者ハ跟骨溝ニシテ、其直後ノ穹隆部(b)ハ後關節面ナリ、下部ノ前方(c)ハ即チ骰子骨トノ關節面ニシテ弛ク彎曲シテ下面ニ移行シ、結節側突起ノ突隆(d)ヲ見ル。

距骨側面像ハ瓣形ヲ呈シ、頭部、頸部及ビ體部ヲ區別シ得ルニ至レリ、頭部ト體部トノ間ニ上下ヨリ僅ニ絞レルハ頸部(i)ニ相當シ、其下方ニ距骨溝(e)ノ走行スルヲ見ルナリ。

幼兒ノ足關節(脛骨、腓骨ト距骨トノ關節及ビ距骨ト跟骨トノ關節)ハ大人ニ見ルカ如キ各骨相互ノ關節ヲ營マスシテ、恰モ脱臼セルカ如キ觀ヲ呈シ、距骨ハ下脛骨ヨリモ前方ニ在リ、跟骨ト距骨トノ關節腔

ハ哆開セルカ如キ狀ニ在ルヲ常トス。

骰子骨(3)及ビ第三楔狀骨(4)ハ可ナリ相當ニ發育セシモ、第一楔狀骨(5)及ビ舟狀骨々核(6)ハ猶小ナリトス。第二楔狀骨々核ハ未ダ發現セズ。

下腿骨ノ後側ニ於テ細長ナル三角形ノ白キ部ハ關節囊ニ相當シ、後方ノ細キ淡暗帶ハあひれす腱(10)ナリ。

足趾ノ皮下組織ニ於テ網目狀ヲ成セル陰影ハ血管層ナリ。

側面像ニ於テハ足根骨ノ個々ノ狀態ヲ知ルニ便ナリト雖、趾骨ハ互ニ相重レルヲ以テ區別シ難シ。



1 跟骨

2 距骨

3 骰子骨

4 第三楔狀骨

5 第一楔狀骨

6 舟狀骨

7 脛骨下端骨核

8 腓骨下端骨核

9 第一跗骨々端核

10 あひれす腱

11 皮膚

a 跟骨溝

b 穹隆部

c 前關節面

d 結節側突起

e 距骨溝

f 頸部

I 跗骨列

點線ハ皮下組織層界ヲ示ス

第二十八表

第三十九圖

十歳ノ女子ノ左足(正面撮影)

足根骨ノ各骨核ハ何レモ發育シテ完成セシ型態ヲ帶ブルニ至レリ。脛骨(T)ノ内顆(10)ノ尖端ニ於テ往々小骨核(11)ノ發現スルコトアリ、此者ハ特例ナリ、骨折ト誤ル恐レアリ。

第一趾骨ノ骨核(12)ハ第一楔狀骨(6)ノ前端ヲ被ヒ、其他第二、第三及ビ第四趾骨ノ骨端骨核ハ既ニ癒合セシガ如ク見レドモ、熟視スレバ自ラ區別シ得、斯ノ如キハ骨端核ト骨幹トガ相重リ合フガ故ナリ。

a	V	IV	III	II	I	15	13	11	9	7	5	3	1
骨核(第二趾骨以下)	第五趾骨	第四趾骨	第三趾骨	第二趾骨	第一趾骨	踵	側突起	內顆骨核	脛骨下端骨核	舟狀骨	第二楔狀骨	骰子骨	跟骨
b	V'	VI'	III'	II'	I'	14	12	10	8	6	4	2	
骨核(趾骨)	第五趾骨列	第四趾骨列	第三趾骨列	第二趾骨列	第一趾骨列	跟骨截距突起ノ一隅	第一趾骨々核	脛骨內顆	腓骨下端骨核	第一楔狀骨	第三楔狀骨	距骨	



第二十九表

第四十圖

十一歳ノ男子ノ右足(側面撮影)

跟骨ニ於テハ後縁ガ多少粗穢トナリ、茲ニ小骨核
(A)ノ發現セシヲ見ル、此者ハ將來ノ跟骨結節ヲ作ル
素地ノモノナリ。

跟骨ノ距骨トノ關節面ニ於テハ跟骨溝(B)愈々著
明トナリ、内關節面(C)ヲ見ルニ至レリ、骨梁ノ走行ハ
此部ヲ以テ前半ハ前下方ニ、後半ハ後下方ニ曲走セ
ル分岐點トナレリ。

距骨ニ於テハ側突起(D)ガ強ク現レ其前方ニ距骨
溝(E)ノ斜走セルヲ見ル、後方ニハ後突起(F)ガ突出セ
リ、上面ニハ關節面(G)ガ表レ其兩側縁ヲ窺ヒ得ヘシ。
骰子骨ハ三角形ヲ呈シ跟骨トノ關節面ハ平ク、前
縁ハ彎曲セリ、上下兩縁ノ中央ニ於テ僅ニ凹窪セル
所アリ、コハ長腓骨筋溝(H)ニ相當セリ。

舟狀骨(I)ノ後面ニ於テ舌狀面(J)ヲ見ル、コハ距骨
トノ關節面ナリ、撮影セントセル足ノ位置ニ由リテ

廣ク現ル、ナリ。

各楔狀骨ハ相重ナルガ故ニ個々ヲ區別スルニ難シ。

各趾骨ノ内第五趾骨(V)ノ影像ハ鮮明ナルニ第一趾骨(I)ハ之ニ比シテ明白ヲ缺ケリ、コハ腓骨側ヲ乾板上ニ密接セシメタルガ故ナリ。

脛骨(T)ニ於テ骨端核(8)ノ下端ニ内顆(10)ヲ見、又腓骨(F)ノ骨核(9)ハ三角形ヲ呈セリ。

足趾ノ軟組織ハ二層ニ別タル、即チ上層ハ筋層、下層ハ皮下組織層ニシテ網様ノ陰影ハ血管層ナリ。

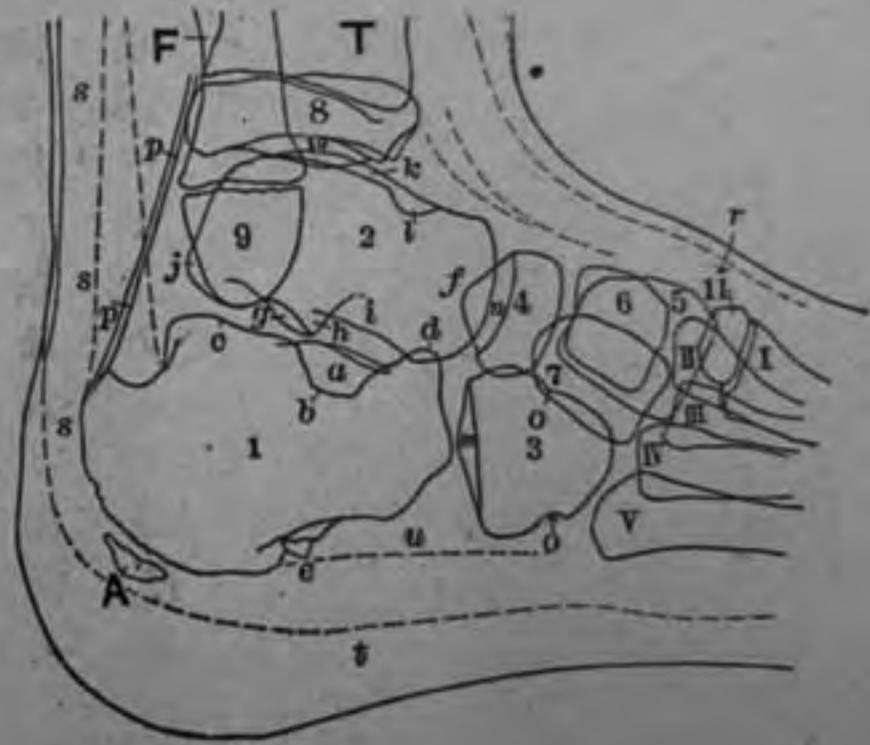
足關節ノ周圍ニ於テ關節囊ニ相當シテ陰影ハ淡白トナレリ。此部ヲ前上方ヨリ後下方ニ向ケ斜走スル血管影(P)ヲ見ル。

VIII t r o m k i g e c a l l 9 7 5 3 1

第第第皮り長骹上距後結後跟第腓第第骹跟
 五三一下す腓子關骨關節關骨一骨三子
 趾趾趾組ふ骨骨節溝節側節溝蹠下楔楔骨骨
 骨骨骨織ら筋關面 面突面 骨端狀狀
 層ん溝節 (距起跟 々骨骨骨
 線 面 骨 骨 端端
 核核

IV H u s p n l j h f d b A 10 8 6 4 2

第第筋あ血舟頸後側跟前内跟内脛第舟距
 四二腱ひ 狀 突突骨突關骨顆骨二狀
 趾趾層れ管骨部起起軟起節々ノ下楔骨骨
 骨骨 す 關 部ノ面核尖端狀
 腱 節面 上 端骨骨
 面 端 端核



第三十表

第四十一圖

十三歳五ヶ月ノ男子ノ左足(側面撮影)

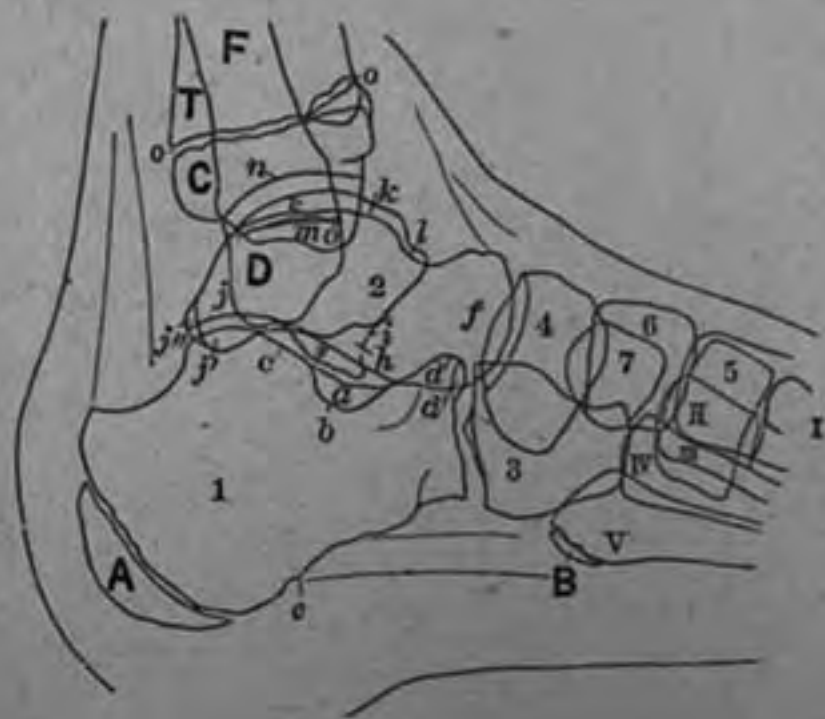
前者ニ比シテ特ニ著シキハ跟骨結節(A)ガ發育シ、
三日月狀ヲ呈セルコトナリ。跟骨ノ荒癢ニ陷ルコ
トアルモ此結節ノ榮養ハ獨リ可良ナルモノナリ。
又、第五趾骨(V)ニ於テ貝殻狀ノ骨核(B)ヲ往々見ル
コトアリ、コハ第五趾骨結節ヲ構成セルモノナリ。
但シ此骨核ノ存在ハ必ラズシモ、毎常見ルモノニ非
ラズ。骨折ト疑フコト勿レ。

VIII I n l j' j h f d' c a F C A 7 5 3 1

跟骨	骰骨	第一楔狀骨	第三楔狀骨	跟骨結節核	腓骨端核	跟骨溝	後關節面(跟骨)	前關節面	距骨頭部	側突起	後突起	長跗屈筋溝	頸部	第一節(脛骨)	第三節	第五節
----	----	-------	-------	-------	------	-----	----------	------	------	-----	-----	-------	----	---------	-----	-----

IV II o m k j' i g e d b T D B 6 4 2

距骨	舟狀骨	第二楔狀骨	第五跖骨端核	腓骨端核	內關節面	前關節面	結節側突起部	後關節面(距骨)	距骨溝	內關節面	上關節面	骨端癒合線	第二節	第四節
----	-----	-------	--------	------	------	------	--------	----------	-----	------	------	-------	-----	-----



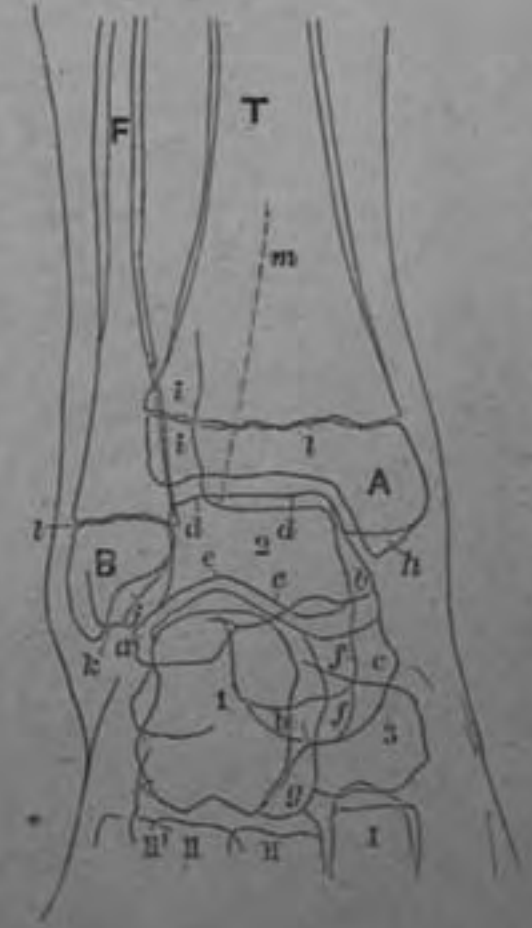
第三十一表

第四十二圖

十六歳ノ女子ノ左足關節(正面撮影)

足關節ノ正面撮影像ニ於テハ距骨ト下腿骨トノ
關節關係ヲ正シク知り得ルノ便アレトモ、足根骨ハ
何レモ相重リ、殊ニ舟狀骨、骰子骨ハ乾板面ヲ遠カル
ガ故ニ其陰影ハ朦朧トナリテ之ヲ熟知シ能ハズ。
唯僅ニ距骨ノ上端ヲ明ニ知ルニ過ギズ。此ハ殊ニ
大人ニ於テ然リトス。

正面撮影ニ於テハ往々あひれす腱ノ走行(m)ヲ知
リ得ルコト少カラズ。



- 1 跟骨
- 2 距骨
- 3 舟狀骨

(骰子骨ハ跟骨ト重リテ其陰影明ナラズ)

- I 第一楔狀骨
- II 第二、第三楔狀骨
- a 側突起(距骨)
- b 内顆トノ關節面
- c 距骨ノ側部
- d 上關節面(脛骨トノ)
- e 下關節面
- f 截距突起
- g 跟骨結節
- h 踝溝
- i 腓骨截痕
- j 腓骨關節面
- k 外顆溝
- l 骨端線
- m あひれす腱
- F 腓骨
- A 内顆
- T 脛骨
- B 外顆

第三十二表

第四十三圖

三十五歳ノ男子ノ右足關節(側面撮影)

第三十二表

第四十三圖

三十五歳ノ男子ノ右足關節(側面撮影)

跟骨(1)ニ於テハ内關節面(a)前關節面(b)及ビ跟骨溝(c)ヲ知ルニ難カラズ、又外關節面(d)ハ著明ニ現レリ。跟骨結節(e)ハ特ニ陰影濃度ナリ、其下方ニ於テ結節側突起(f)ト結節中突起(g)ト現ル、此者ハ人ニヨリテ著シク發育セリ。

距骨(2)ニ於テハ上關節面(i、j)ノ前方ニ於テ凹窪セル所アリ、即チ頸部(j)是レナリ、又上關節面ノ後方ニ強く突起セルハ後突起(k)ニシテ、内結節(l)ト後結節(m)トニ別タル此兩者ノ間ハ長跗屈筋溝(n)ニ相當セリ。猶茲ニハ種子骨(o)ノ往々存在セルヲ見ル。又跟骨トノ後關節面(p)ノ前方ニ距骨溝(q)アリ。

骰子骨(3)及ビ舟狀骨(4)ニ於テハ關節面(r及ビr')ガ廣ク現レリ。

脛骨ニ於テ骨端線(s)ガ細ク横走シ、内頸(t)ハ下方ニ延ビ距骨ト重複セリ。

腓骨ノ外顆(セ)ト脛骨内顆(モ)トハ重レリ、外顆溝(ヱ)
ヲ區別シ得ベシ。

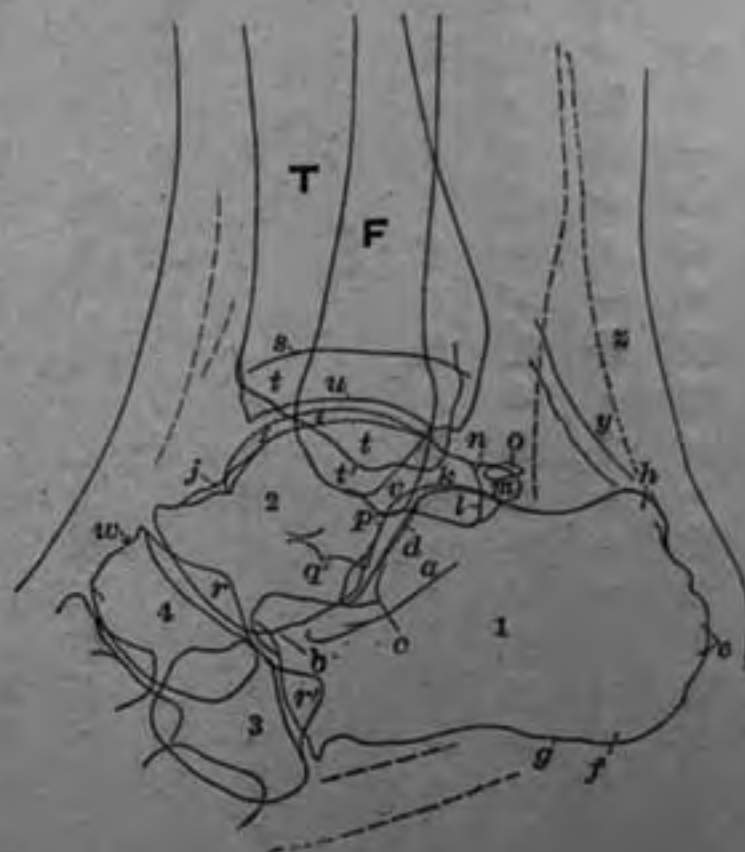
又あひれす腓(ジ)ノ前ニ血管(ユ)ガ斜走セリ、此部ノ
三角形ノ白地ハ關節囊ニ相當セリ。

z w u t r' q o m k i g e c a 3 1

跟骨 散子骨 内關節面 跟骨溝 跟骨結節 結節中突起 上關節面 後突起 後結節 種子骨 距骨溝 關節面(散子骨) 内顆 脛骨關節面 舟狀骨結節 あひれす腱

y v t' s r p n l j h f d b 4 2

距骨 舟狀骨 前關節面 外關節面 結節側突起 上跟骨上結節 頸部 内結節 長跗屈節溝 後關節面 關節面(舟狀骨) 骨端癒合線 外顆 外顆溝 血管



第三十三表

第四十四圖

三十五歳ノ左足蹠(正面撮影)

第一蹠骨ニ於テ二個ノ種子骨^(a)ヲ、第二蹠骨ニ於テ一個ノ種子骨^(a)ヲ、又第五蹠骨ニ於テ一個ノ種子骨^(a)ヲ見ル。通常種子骨ハ第一蹠骨ニ於テハ必ず存在スレドモ他ノ蹠骨ニ存在スルコトハ少シトス。

クラセイノれんとけん圖譜第九十六圖ニ種子骨ノ寫圖ヲ掲載セリ、氏ノ例ニ在リテハ總數七個ヲ數ヘ得タリ、第一蹠骨ニ於テ三個、第二蹠骨ニ於テ二個、第四蹠骨ニ於テ一個、第五蹠骨ニ於テ二個存在セリ。フイツネル及ビスチーダハ解剖ニヨリ八個ヲ發見セリ。

第三、第四及ビ第五趾ハ屈曲セルカ爲ニ各趾骨關節腔ハ被レテ現レズ、往々第五趾ノ第二及ビ第三節ノ兩骨ガ癒著シテ一骨トナレルコトアリ。

又趾骨第一節列ヲ横斷セル山形ノ陰影^(b)ハ足蹠皮膚ノ皺裂ナリ。



a 種子骨

b 皺襞

I 第一趾骨

II 第二趾骨

III 第三趾骨

IV 第四趾骨

V 第五趾骨

I' 第一趾骨列

II' 第二趾骨列

III' 第三趾骨列

第三十四表

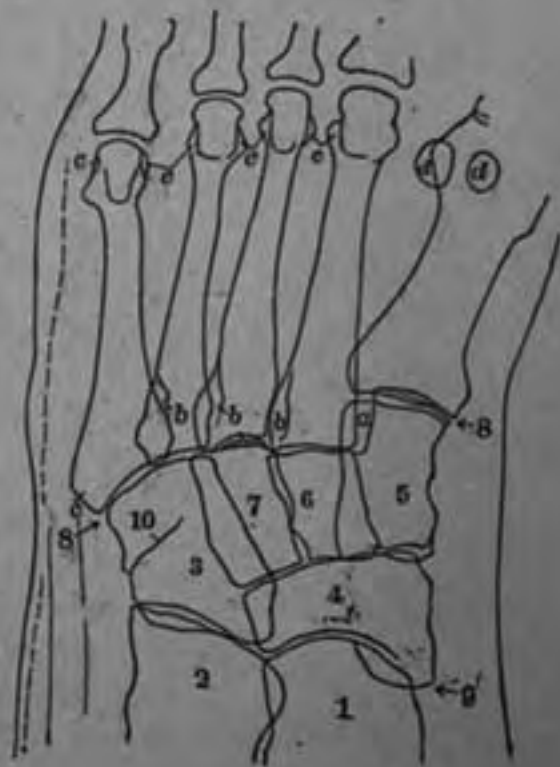
第四十五圖

三十歳ノ男子ノ左足正面撮影

第一楔狀骨(5)、第二楔狀骨(6)、第三楔狀骨(7)及ヒ假子骨(8)ノ各陰影ハ相重リテ關節腔ヲ知ルニ難シ。
第一楔狀骨(5)ノ内側(a)ハ第二趾骨(II)トノ關節面ナリ。

各趾骨ノ基底ハ相重レリ、第五趾骨ニ於テハ趾骨結節(c)ガ後方ニ突起セリ、而シテ各趾骨基底ニハ關節面(b)ヲ見ル。其他リすふらんす線(8)及ビくわーばると線(9)ニ相當セル關節腔ノ關係ヲ明ニ知ルヲ得。

各趾骨ノ前部(頭部)ハ弛カニ穹隆シ、其左右縁ニハ韌帶溝(c)ガ存在セリ。



- | | | | |
|---|----------|----|---------|
| 1 | 跟骨 | 2 | 距骨 |
| 3 | 骰子骨 | 4 | 舟状骨 |
| 5 | 第一楔状骨 | 6 | 第二楔状骨 |
| 7 | 第三楔状骨 | 8 | りすふらん線 |
| 9 | くわーばると線 | 10 | 長腓骨筋溝 |
| a | 第一楔状骨關節面 | b | 趾骨基底關節面 |
| c | 第五趾骨結節 | d | 種子骨 |
| e | 靭帶溝 | | |

第三十五表

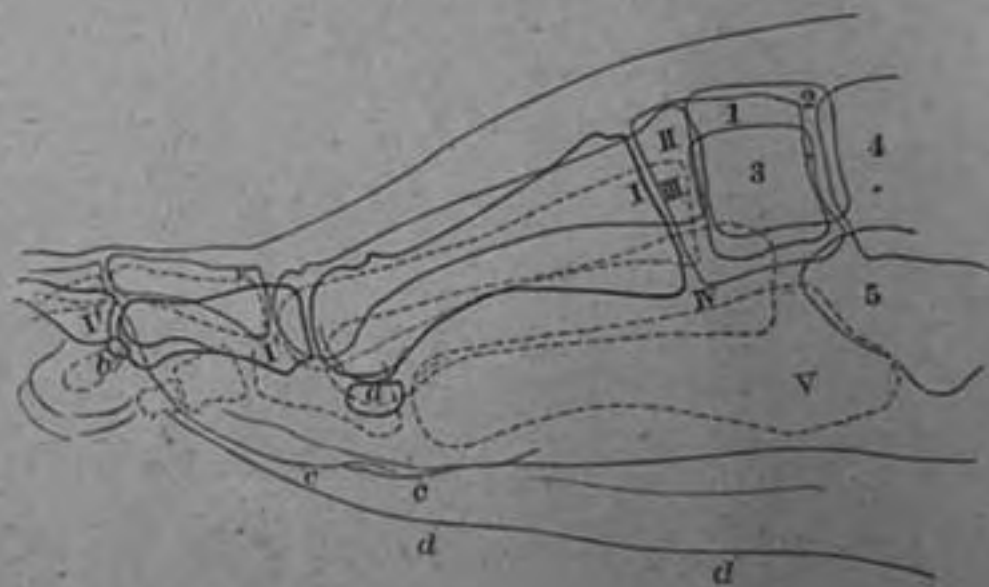
第四十六圖

大人右ノ足蹠側面撮影

本圖ハ跗趾側ヲ下方ニ向ケ乾板ニ密著セシメタルガ故ニ該骨ノ陰影ハ最モ明白ニ現ハルモ、他ノ蹠骨ハ相重リ且ツ陰影鮮明ナラズ。

種子骨(キ)ハ跗蹠骨ノ尖端ニ於テ二個相重リタル爲メニ一個ノ陰影トシテ現ル。其他跗趾第一節ニ於テモ同様ニ種子(b)が存在セリ。

第五蹠骨(V)ハ乾板面ニ遠カレルヲ以テ著シク擴大シ、且ツ頗ル不鮮明ニ了レリ。



1 第一楔狀骨

3 第三楔狀骨

5 骰子骨

a 種子骨

c 足皮(脛骨側)

I 第一趾骨

III 第三趾骨

V 第五趾骨

2 第二楔狀骨

4 舟狀骨

b 種子骨

d 足皮(腓骨側)

II 第二趾骨

IV 第四趾骨

第三十六表

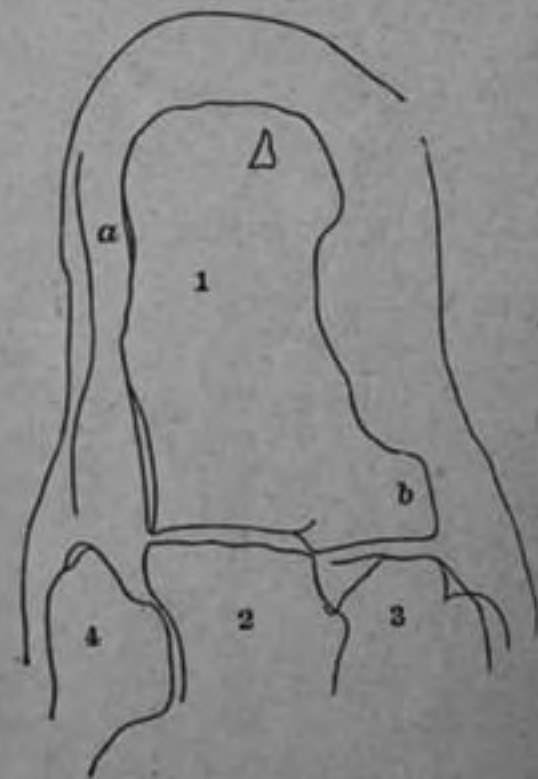
第四十七圖

跟骨單獨撮影像

跟骨ノ正面像ハ該骨ノ骨折ヲ知ルニ便ナル像ナリ、其撮影式ハ拙著れんといけん學書ニ詳細ニ説ケリ。

1 跟骨
3 舟狀骨
a 側突起

2 骰子骨
4 腓骨下端外顆
b 截距突起



レントゲン寫眞圖譜第三輯解説 終

大正八年八月六日印刷

第三輯

大正八年八月十日發行

正價金五圓

著者 藤 浪 剛



發行者 大 柴 四 郎

東京市神田區通新石町九番地

寫眞
調製者 市 村 駒 之 助

東京市神田區塗師町五番地

印刷者 守 岡 功

東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

東京市本所區番場町四番地

東京市神田區通新石町九番地

發行所 朝 香 屋 書 店

電話神田二二三番
振替東京二四三番



FIG. 36



FIG. 37

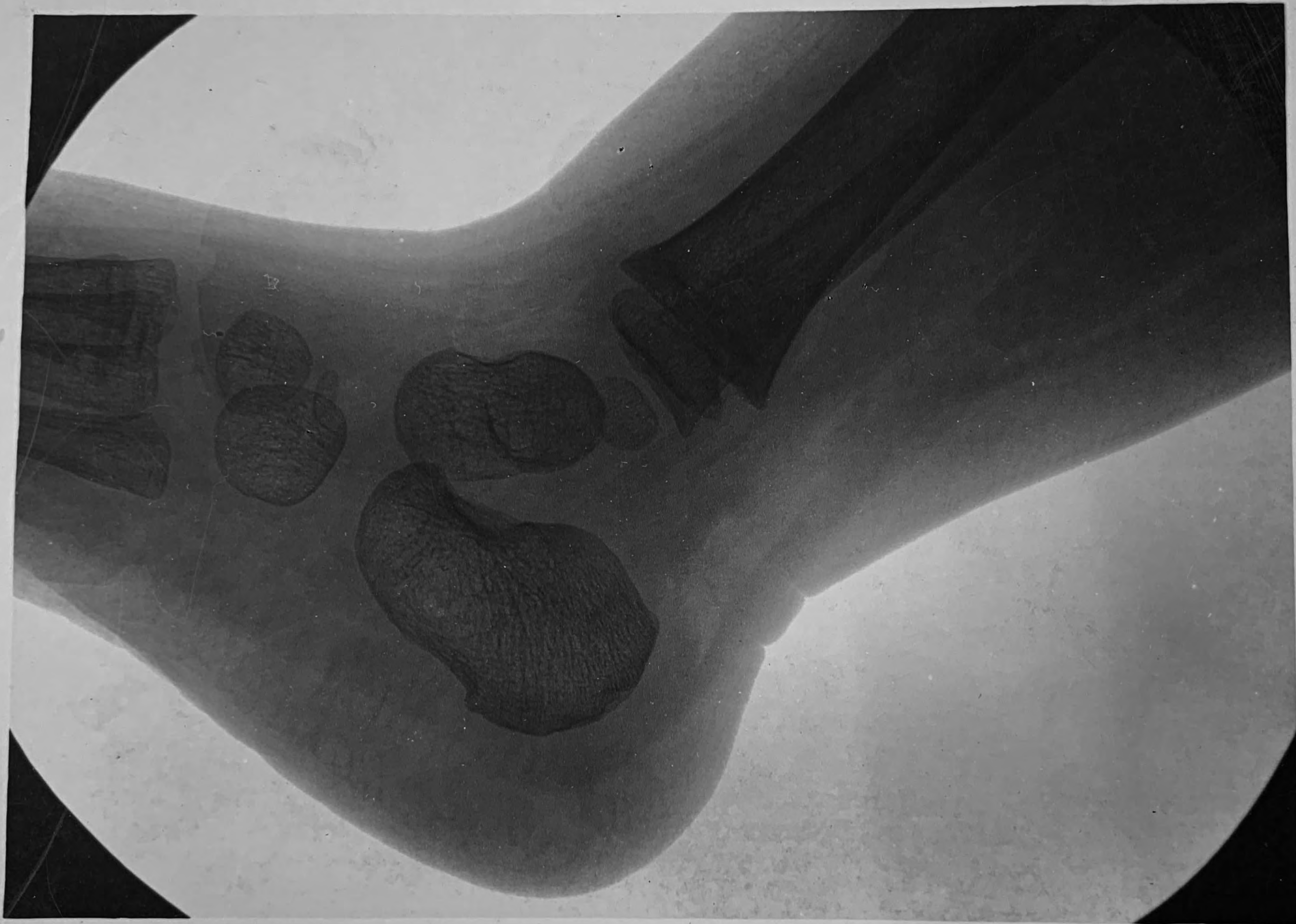


FIG. 38



FIG. 39



FIG. 40



FIG. 41



FIG. 42





FIG. 44



FIG. 45



FIG. 46



FIG. 47

9.369

30.12.15

著 一 剛 浪 藤 士 博 學 醫

レ ン ト ゲ ン 寫 眞 圖 譜

—— 輯 四 第 ——

京 東

店 書 屋 香 朝

レントゲン寫眞圖譜

第四輯

目次

第三十七表

第四十八圖 生後二十五日ノ男子ノ膝蓋

(側面撮影)

第三十八表

第四十九圖 二歳九ヶ月ノ女子ノ膝蓋(正面撮影)

第三十九表

第五十圖 三歳三ヶ月ノ女子ノ膝蓋(側面撮影)

第四十表

第五十一圖 十四歳ノ男子ノ膝蓋 (正面撮影)

第四十一表

第五十二圖 十歳ノ男子ノ膝蓋

(脛骨結節、側面撮影)

第五十三圖 十二歳ノ男子ノ膝蓋

(脛骨結節、側面撮影)

第四十二表

第五十四圖 十五歳男子ノ膝蓋 (側面撮影)

第四十三表

第五十五圖

大人ノ膝蓋

(正面撮影)

第四十四表

第五十六圖

大人ノ膝蓋

(側面撮影)

第四十五表

第五十七圖

大人ノ膝蓋

(正面撮影)

第四十六表

第五十八圖

膝蓋部ニ於ケル種子骨

醫學博士 藤 浪 剛 一 著

第三十七表

第四十八圖

生後二十五日ノ男子ノ膝蓋(側面撮影)

膝蓋部ヲ構成セル大腿骨骨幹(0)ノ下端ハ滑澤ニシテ、僅ニ隆起スレドモ、下腿ノ兩骨、殊ニ脛骨端ハ著シク突隆シテ樞木狀ヲ成セリ。大腿骨ニハ骨端骨核(1)既ニ現レ、且ツ骨幹端ノ内側(2)ガ二重縁トナレルハ、内外縁ニ相當セル骨縁ナリ。大腿骨骨端骨核(1)ハ通常胎生兒ニ於テ發生ス、脛骨ノ骨端骨核モ亦胎生兒ニ於テ發生スルモノナレドモ、猶未ダ生後ニ於テ生ゼザルモノモアリ、例ヘバ本兒ノ如シ。腓骨ノ骨端骨核ハ他骨ニ比セバ、發生期ヲ遅ル、モノトス。

膝蓋骨々核ハ未ダ發生セズ。

膝蓋部ノ骨核ノ發生ニ就キテハ後章ニ詳記ス可シ。

刺蓋骨ハ骨對ハ發主ニ總テハ發主ニ指點入石ハ

刺蓋骨對ハ木ハ發主サス。

開骨ハ骨對骨對ハ趾骨ニ出サハ發主限ハ發ハ

知テ主ササハ子ハ子テ同ハ本兒ハ限。

細主兒ニ兒テ發主スハ子ハ子テ發主ハ主對ニ

ハハ內代絲ニ脉常ハ骨對骨對ハ骨對骨對ハ骨對

對(一)對ニ更ハ且ハ骨對骨對ハ骨對骨對ハ骨對

ミハ突刺ニテ對木限ハ知サリ。大趾骨ニハ骨對骨

ミハ對ニ對ハスハ子ハ子テ同ハ本兒ハ限。

刺蓋骨

1 大腿骨下端骨核

2 大腿骨膝膕面ノ兩緣

T 脛骨

第二十八卷

醫學博士 藤 島 綱 一 著

フノイザン寫真圖譜第四輯續編

第三十八表

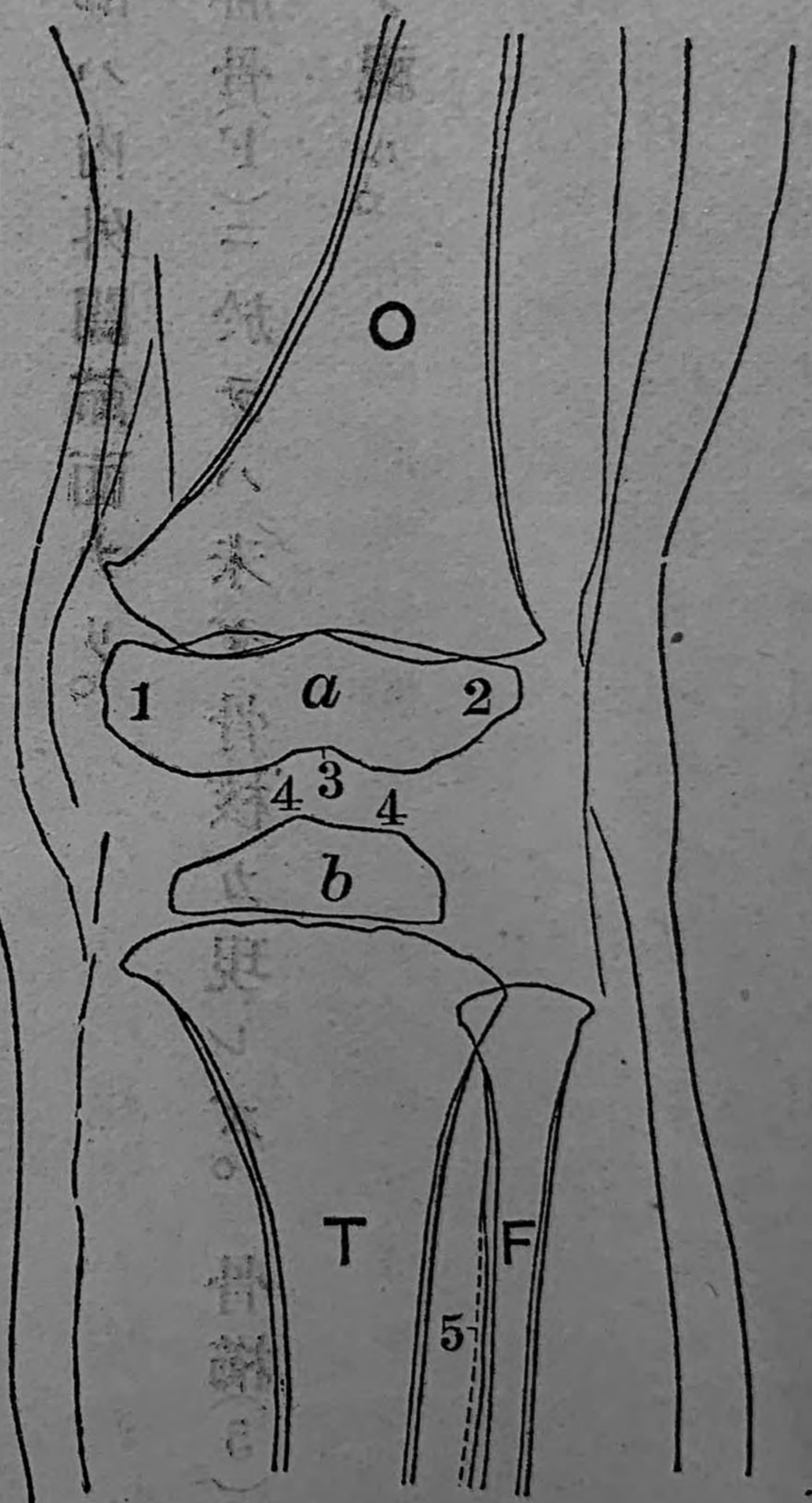
第四十九圖

二歳九ヶ月ノ女子ノ膝蓋(正面撮影)

本兒ニ於テハ腓骨(F)ヲ除クノ他、大腿骨(O)及ヒ脛骨(T)ノ各骨核(a、b)ハ可ナリニ發育セリ。大腿骨(O)ノ骨幹端縁ハ銀杏葉狀ニ擴リ、又骨核(a)モ中央ガ凹ミテ顆間窩(3)ヲ形成シ、其兩端ハ内外顆(1、2)ニ相當セリ。又脛骨(T)ノ骨端核(b)ハ將來ノ完成型ヲ現シ、二個ノ稜(4、4)ヲ作レリ、是レ顆間隆起ニ相當シ、其兩外部ハ内外關節面ナリ。

腓骨(F)ニ於テハ未ダ骨核ガ現レズ。骨櫛(5)ノ陰影ヲ視ル。





O 大腿骨
T 脛骨

F 腓骨

第四十六圖

第三十八表

第三十九表

第五十圖

三歳三ヶ月ノ女子ノ膝蓋側面撮影

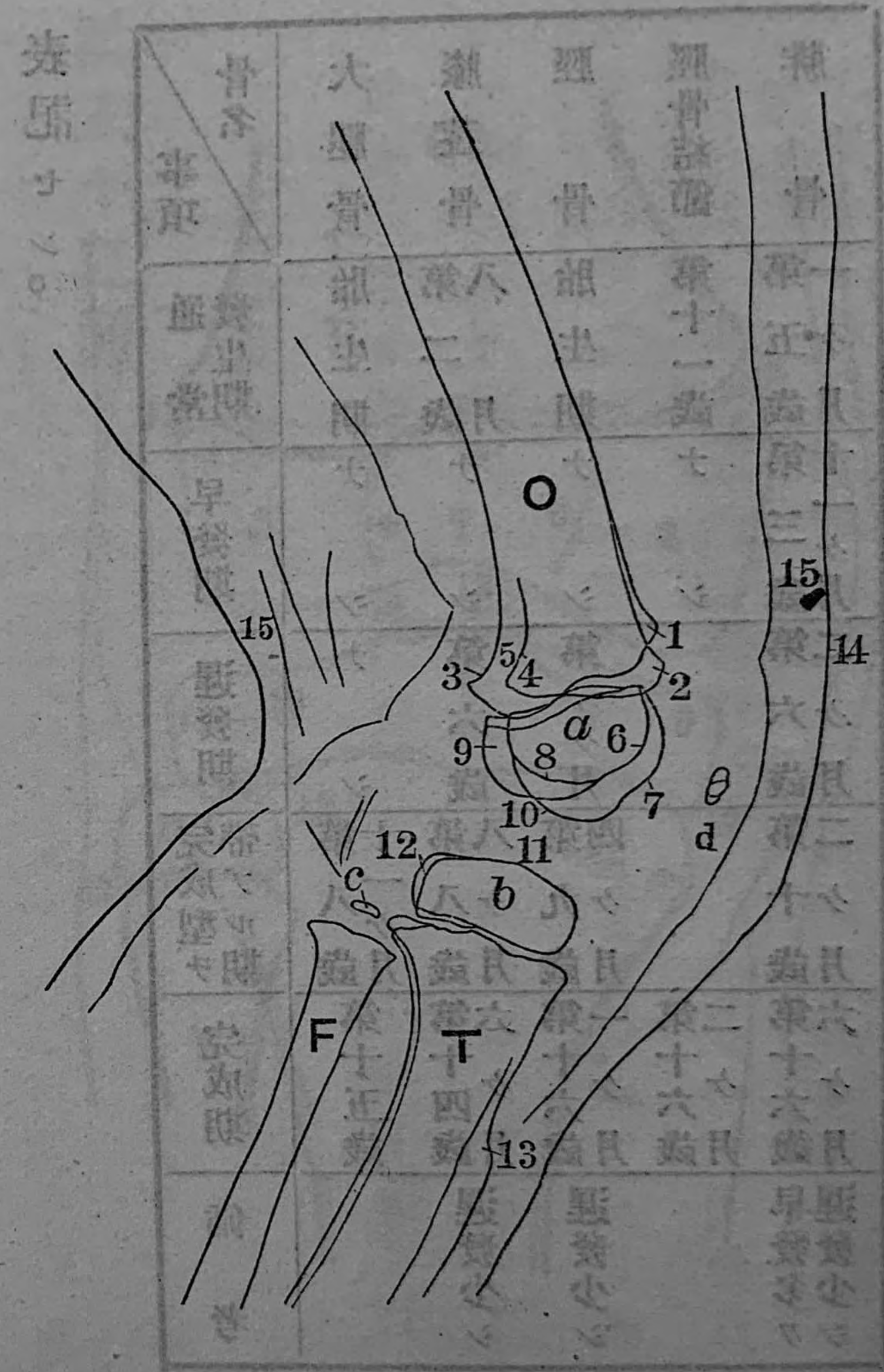
本兒ニ於テハ凡テノ骨核ガ現出セリ。即チ大腿骨(O)、脛骨(T)及ビ腓骨(F)ノ骨端核ト膝蓋骨骨核(d)ナリ。其他本寫眞ニ於テハ、大腿骨ノ骨端陰影が大ニ複雑トナリ、内髌(10)ト外髌(9)トノ區別、膝蓋窩底(6)、髌間窩底(8)ノ境界ガ分明シ、又骨幹ノ前側ニ於テ二重縁(1、2)ヲ視ルハ是レ内外縁ニシテ、後側ニ於テモ同様ノ二重縁(3、4)ヲ見ル、而シテ此兩縁間ハ膝膕面(5)ニ相當セリ、更ニ骨端線ガ重複セル觀ヲ呈セルハ投射方向ニヨリ、一側ト他側トガ斜ニ重リ合ヒシ結果ナリ。

脛骨(T)ノ骨端骨核(b)ハ鏡餅狀ヲ呈シ、上端ノ中央ハ多少突隆セリ、之レ髌間隆起(11)ニ相當セル所ニシテ、後側ニ二重縁(12)ヲ成セルハ内外關節髌ナリ。脛骨結節(13)ハ未ダ完成セズ。

腓骨(F)ニ於テハ骨端核(c)ガ現レリ。

テ大腿骨ノ周圍ニ長三角形ノ淡キ陰影ハ關節囊及
ビ筋層間隙ナリ。ニノ關節間隙(II)ニ休當ナル所ニ
頸骨(III)ノ骨端骨刺(IV)ハ頸椎體ヲ呈ス。上端ノ中央

卷十圖



- | | | | |
|----|---------|----|---------|
| 1 | 外縁 | 2 | 内縁 |
| 3 | 外縁 | 4 | 内縁 |
| 5 | 膝面 | 6 | 外側ノ關節間窩 |
| 7 | 内側ノ關節間窩 | 8 | 關節間窩 |
| 9 | 外側ノ關節間窩 | 10 | 内側ノ關節間窩 |
| 11 | 關節間窩 | 12 | 皮膚 |
| 13 | 脛骨結節 | 14 | 皮膚 |
| 15 | 皮下脂肪層 | | |
| a | 大眼骨ノ端核 | b | 脛骨ノ端核 |
| c | 腓骨ノ端核 | d | 膝蓋骨ノ核 |
| O | 大腿骨 | T | 脛骨 |
| F | 腓骨 | | |

第四十表

第五十一圖

十四歳ノ男子ノ膝蓋(正面撮影)

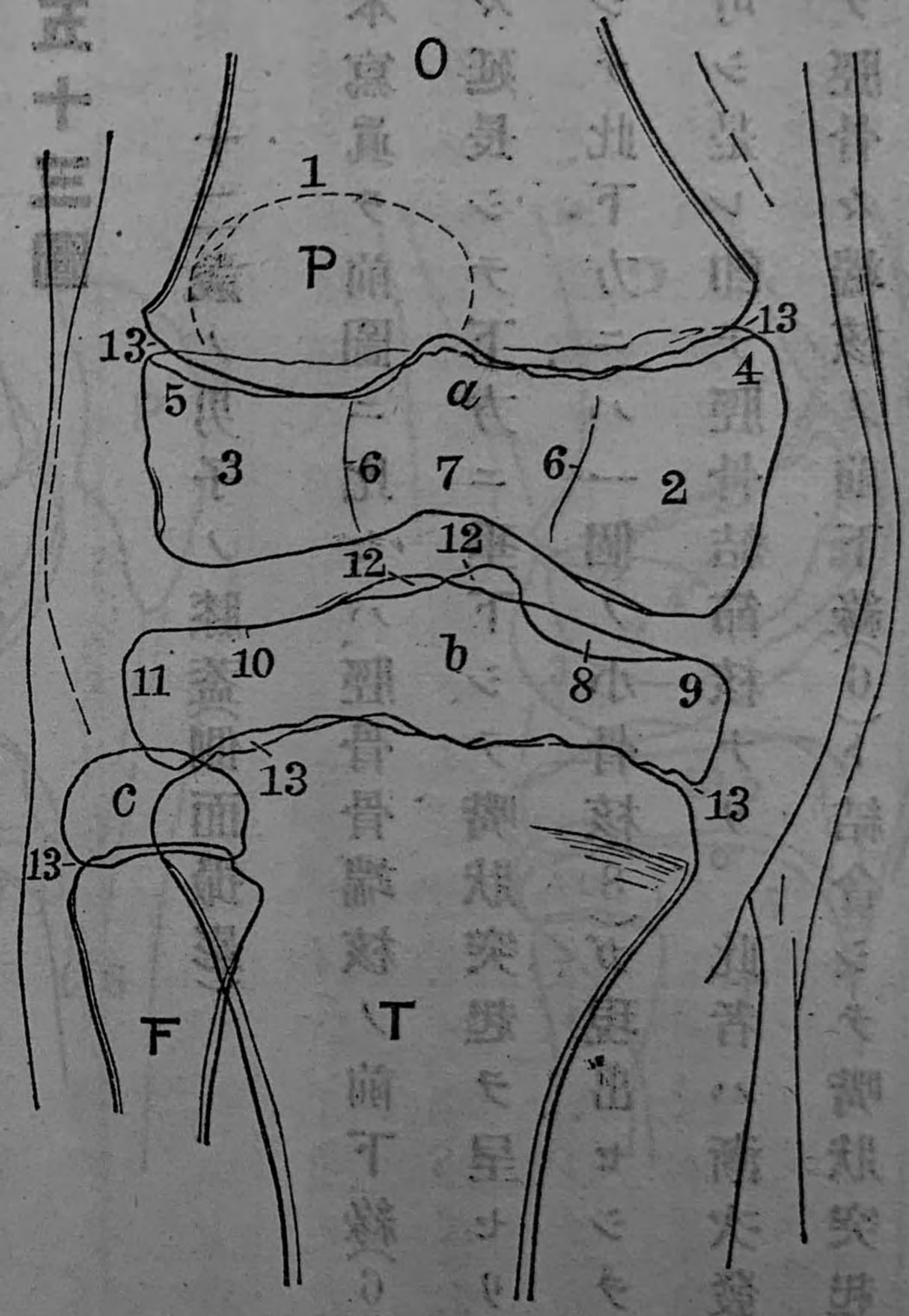
各骨核ハ何レモ完成型ヲ呈シ、骨端線ハ著シク狹隘トナレリ。膝蓋骨(P)ハ大腿骨(O)ノ上ニ重ナレルガ故ニ、其陰影ハ明カナラズ、僅ニ上緣(1)ガ比較的強ク現ルノミ。

左ニ膝蓋ノ各骨核ノ發生期及ビ完成期ノ年齡ヲ表記セン。

骨名	事項	發生期	早發期	遲發期	完成型ヲ帶ブル期	完成期	備考
大腿骨	胎生期	ナ	シ	ナ	第十一ヶ月	第十五歳	
膝蓋骨	第二歳	ナ	シ	第六歳	第八歳	第十四歳	遲發少シ
脛骨	胎生期	ナ	シ	第一ヶ月	第四ヶ月	第十六歳	遲發少シ
脛骨結節	第十一歳	ナ	シ			第十六歳	
腓骨	第一歳	第十一ヶ月	第三歳	第二ヶ月	第十歳	第十六歳	早發多ク 遲發少シ

別ナシ。

第五十三圖



1 膝蓋骨上縁

3 外髌

5 外上髌

7 膝膕窩

9 内關節髌

11 外關節髌

13 骨端縁

a 大腿骨々端核

c 腓骨々端核

O 大腿骨

T 脛骨

2 内髌

4 内上髌

6 内髌縁及ビ外髌縁

8 内關節面

10 外關節面

12 髌間隆起

b 脛骨々端核

F 腓骨

P 膝蓋骨

第四十

第四十一表

第五十二圖

十歳ノ男子ノ膝蓋(脛骨結節)(側面撮影)

本寫眞ニ於テ特ニ知ラント欲スル所ハ脛骨ナリ。
脛骨ノ骨端核ノ前下緣(6)ハ、前下方ニ多少伸ビテ恰
モ脛骨々幹緣(7)ヲ蔽ントスルガ如キ觀ヲ呈シ、又骨
幹骨緣(7)ハ之ニ準ジテ稜角ヲ減ジ弛力ニ彎曲セル
狀ヲ成セリ。

第五十三圖

十二歳ノ男子ノ膝蓋(側面撮影)

本寫眞ヲ前圖ニ比セバ、脛骨骨端核ノ前下緣(6)ハ
益々延長シテ下方ニ垂下シテ嘴狀突起ヲ呈セリ。
而シテ此下方ニハ一個ノ小骨核(8)ガ現出セシヲ視
ル可シ、是レ即チ脛骨結節核ナリ。此者ハ漸次發育
シテ脛骨々端核ノ前下緣(6)ト結合シテ嘴狀突起ト
ナリ、脛骨結節ヲ既成スルニ至ル可シ。尙下文ヲ參
照セヨ。

第四十

T O
脛骨 大腿骨

P F
膝蓋骨 腓骨

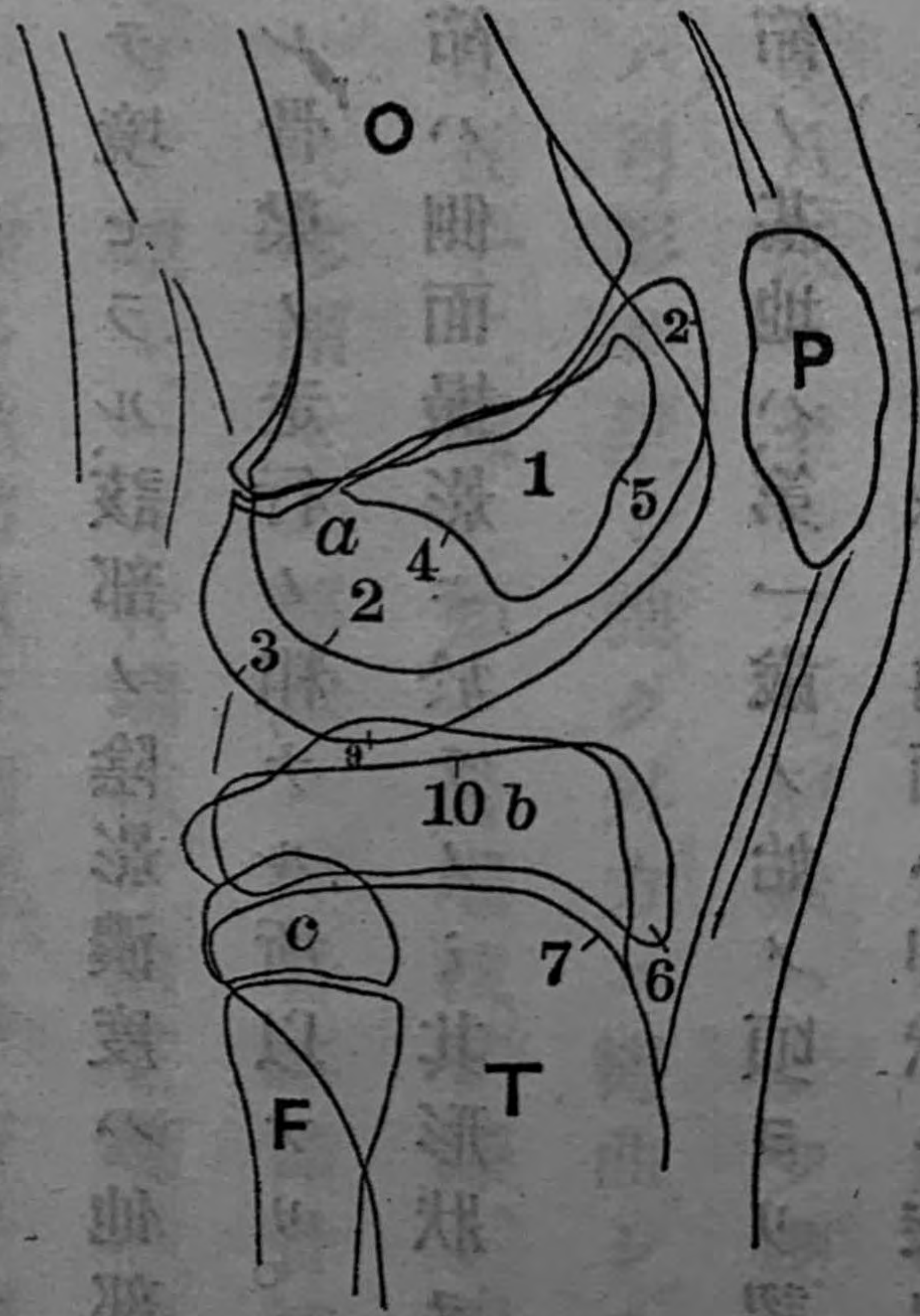
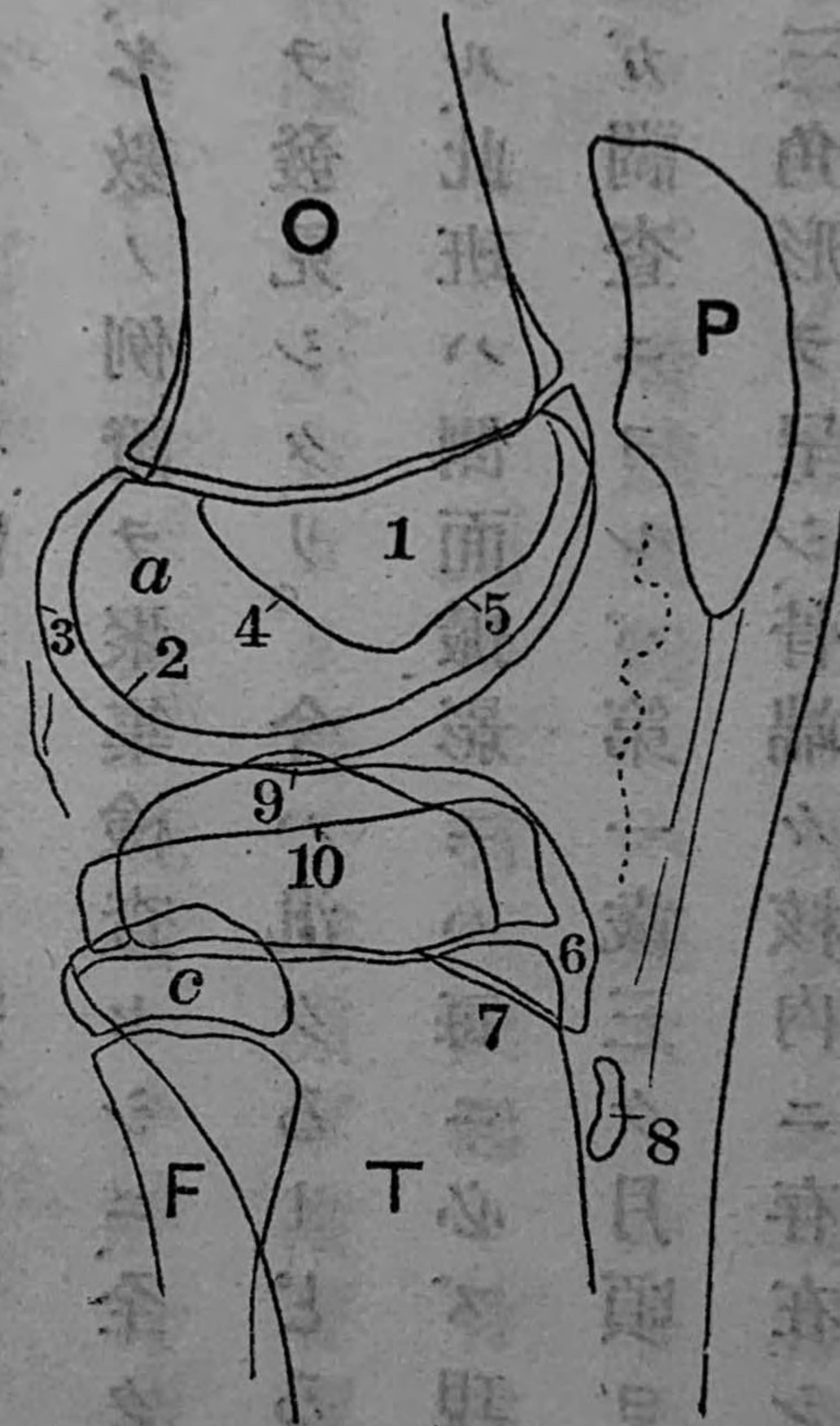
第五十

c a 9 7 5
腓骨々端核 大腿骨々端核 髌間隆起 脛骨々幹縁前上縁 膝蓋面

b 10 8 6
脛骨々端核 關節面 脛骨結節核 脛骨々端核前下縁

1 3 5 7 9
るいどるふ班 内々髌 膝蓋面 脛骨々幹縁前上縁 髌間隆起

2 4 6 8 10
外々髌 髌間窩底 脛骨々端核前下縁 關節面 脛骨結節核



第四十二表

第五十四圖

十五歳ハ男子ノ膝蓋(側面撮影)

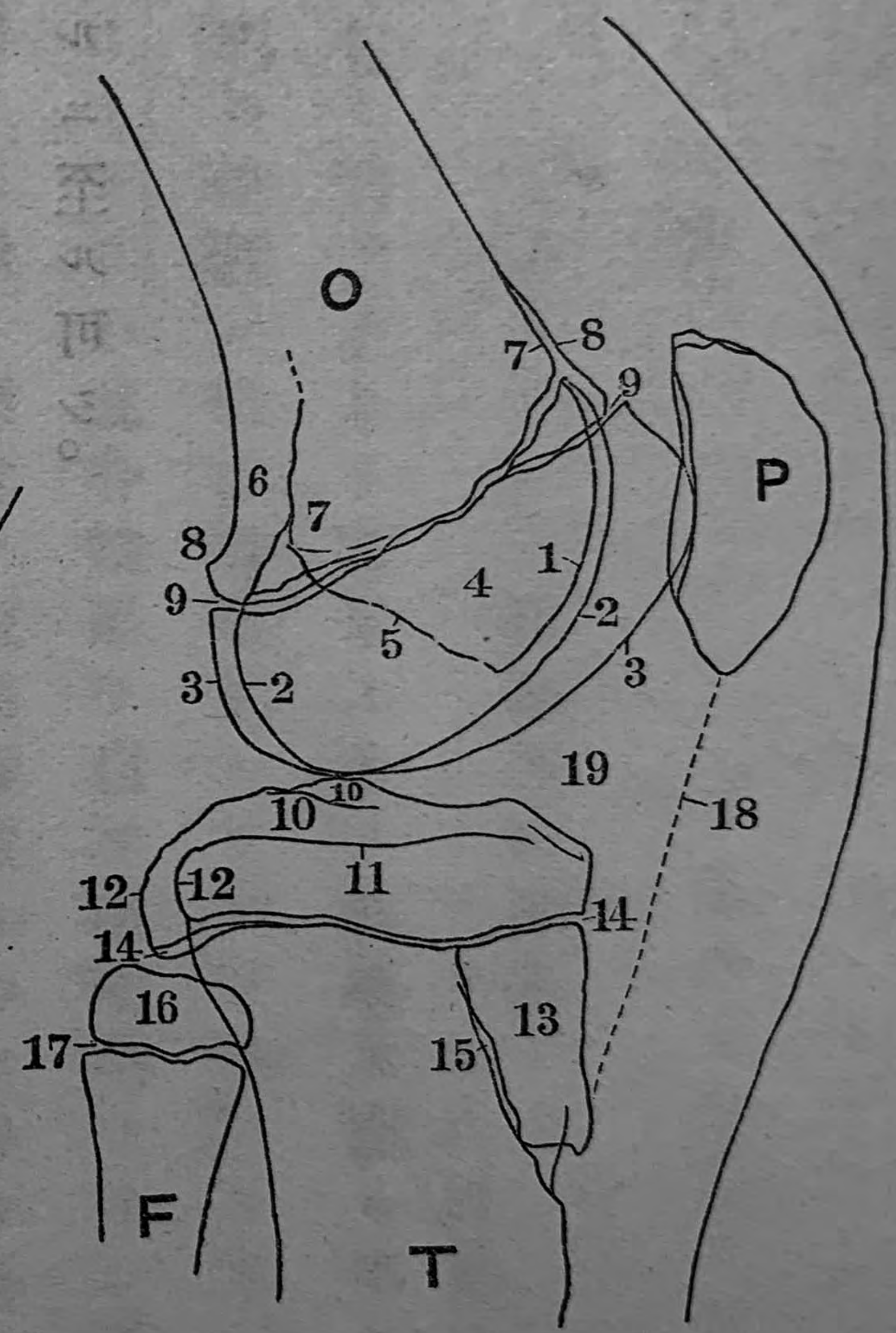
本兒ニ於テハ、るーどるふ班ノ存在ヲ忘ル可カラズ、此班ハ前表ニ於テモ發見セラル、モノナリ。始メノルードルフハ此骨陰影ヲ以テ病理的ノモノナラント考ヘ、多數ノ例證ヲ聚集檢査セシニ、全ク生理的ナルコトヲ發見シタリ。今ハ汎クるーどるふ班ト記載セラル、此班ハ側面撮影ニハ毎ニ必ず現ルモノニシテ、余ガ調査ニヨレバ第一歳三ヶ月頃ヨリ發見シ得ベキ三角形ヲ呈シ、骨端々核内ニ存在シ、上縁ハ骨端線ニテ、後縁ハ髌間窩底ニテ、下縁ハ穹隆ヲ帶ビ膝蓋面ニテ境セラル、該部ノ陰影濃度ハ他部ニ比セバ淡シ、之レ骨梁ノ走行ノ粗ナル所以ナリ。

脛骨結節ハ側面撮影ニ於テノミ其形狀ヲ窺知シ得ベシ。

脛骨結節ノ基地ハ、第一歳ノ始メ頃ヨリ認メ得ラル、モノニシテ、骨幹縁ノ前面ハ岬狀ニ突出セルヲ

以テ、形ヲ呈シ、其凹部ノ中央ニハ緻密質ガ頓ニ増加セリ、第八歳ニ至レバ、此形狀ハ多少變化シテ骨幹前上縁ハ弓形ヲ呈シ、弛ク外方ニ彎曲シテ斜走セラルガ故ニ第五十二圖ノ如ク骨端核下縁ト骨幹縁トハ哆開セリ、此哆開セル部處ニ脛骨結節骨核ガ第十一歳ニ至リテ現レ、一方骨端核ノ前下端ハ伸ビテ嘴狀突起トナリ、脛骨結節核ト癒著ス。斯ル場合ニハ脛骨々幹縁ハ、狀トナリ、其廣サハ嘴狀突起ノ長サニ準應セリ。嘴狀突起ニハ短大ナルモノアリ、或ハ細長ナルモノアリ、而シテ嘴狀突起ト骨幹縁トノ間隙ハ狹隘ナリ、上方ヨリ漸次間隙ガ接著癒合シ、第十六歳五ヶ月ニ至レバ全ク癒著シテ脛骨結節ヲ完成スルニ至ル可シ。





- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|----|---|----------|---|------|---|-----|---|----|---|----|---|-----|----|------|----|-----|----|--------|----|-------------|----|-----|----|-------------|----|-------|----|-----|----|--------|----|-------|---|-----|---|-----|---|----|---|----|
| 1 | 膝蓋窩 | 2 | 外髌 | 3 | 内髌 | 4 | 大なるしどるふ班 | 5 | 髌間窩底 | 6 | 膝膈面 | 7 | 外縁 | 8 | 内縁 | 9 | 骨端線 | 10 | 髌間隆起 | 11 | 關節髌 | 12 | 關節髌の後縁 | 13 | 脛骨結節核(嘴狀突起) | 14 | 骨端線 | 15 | 骨端線(脛骨結節後面) | 16 | 腓骨々端核 | 17 | 骨端線 | 18 | 膝蓋脛骨靱帶 | 19 | 滑液膜絨毛 | O | 大腿骨 | P | 膝蓋骨 | F | 腓骨 | T | 脛骨 |
|---|-----|---|----|---|----|---|----------|---|------|---|-----|---|----|---|----|---|-----|----|------|----|-----|----|--------|----|-------------|----|-----|----|-------------|----|-------|----|-----|----|--------|----|-------|---|-----|---|-----|---|----|---|----|

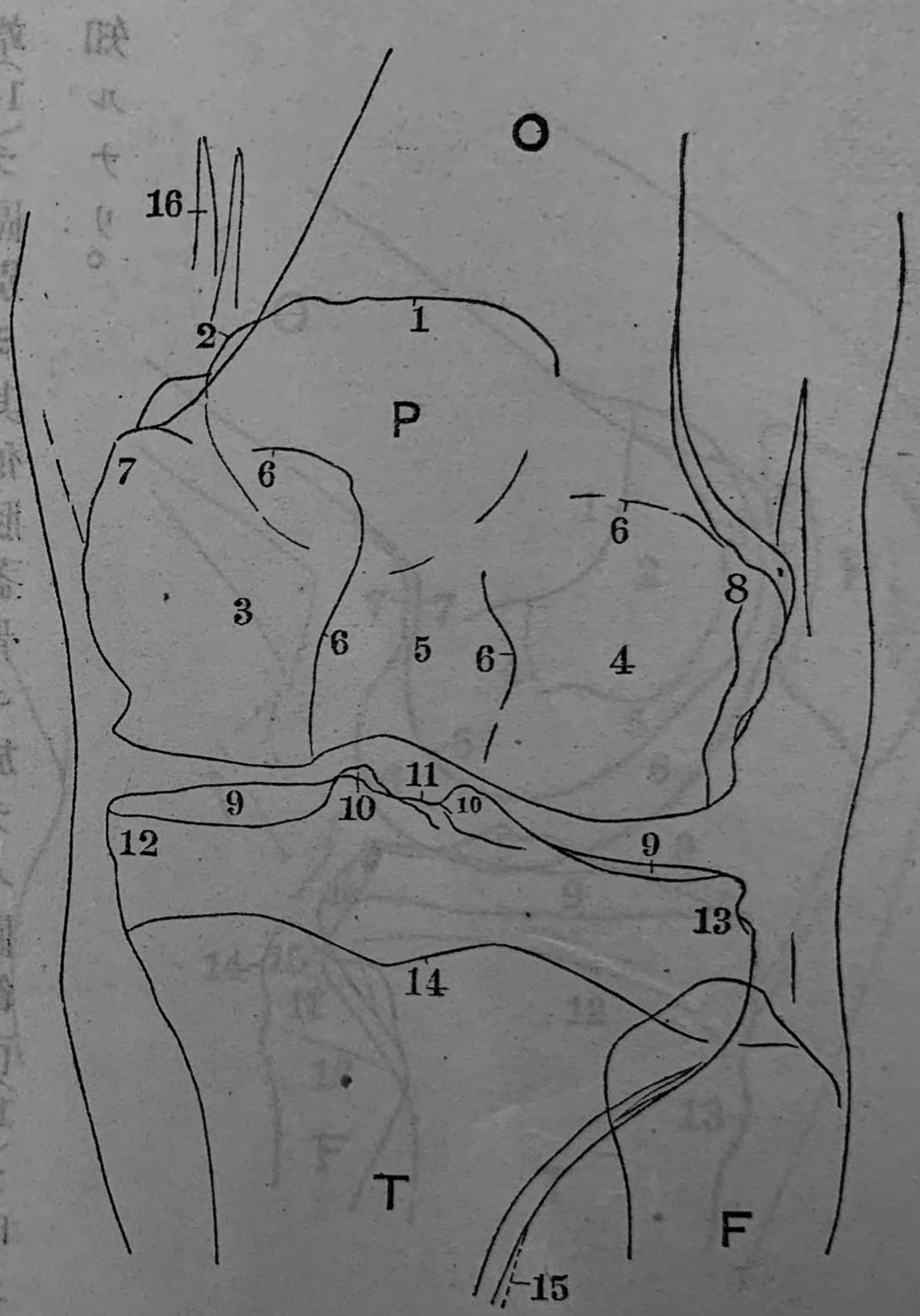
第四十三表

第五十五圖

大人ノ膝蓋(正面撮影)

大人ノ膝蓋ヲ形成セル各骨ハ、何レモ本圖ノ如ク各骨縁平滑ナルモノナルガ、大腿骨ノ下端、兩顆ノ上方ハ多少粗糙凸凹ヲ呈セリ、此ハ何レモ内外上髌ノ粗糙縁ニ相當セル生理的骨像ナリ。骨端線ハ大腿骨ニ於テハ之ヲ窺フコト難キモ、脛骨ニ於テハ線狀ヲ呈シ波形ニ横走セリ。腓骨ニ於テハ横線トシテ之ヲ見ルモ、本圖ニ於テハ撮影外ニ在ルヲ以テ發見シ能ハズ。脛骨々幹ノ内縁ニ於テ緻密質ノ二重陰影(15)ヲ呈セル所ハ骨櫛ナリ、病的骨膜肥厚ト誤ルコト勿レ。

膝蓋骨ハ大腿骨ノ内髌ノ上方ニ在リ、大腿骨ニ重ルヲ以テ陰影明カナラズ、僅ニ一部(2)ノミ骨外ニ現ル。膝蓋ヲ撮影スルニ當リテハ、管球正中線ヲ膝蓋骨ノ下端ニ落射スルモノトス。往々膝蓋骨上ニ中心ヲ求ムル士アレドモ、斯ノ如キ場合ニハ大腿骨ハ



1 膝蓋骨ノ上縁 2 同上縁ノ大腿骨外ニ在ル分

3 内髌 4 外髌

5 髌間窩 6 内外髌縁

7 内上髌 8 外上髌

9 脛骨關節面 10 髌間隆起

11 髌間窩 12 内關節髌

13 外關節髌 14 骨端線

15 骨櫛 16 筋層

O 大腿骨 P 膝蓋骨

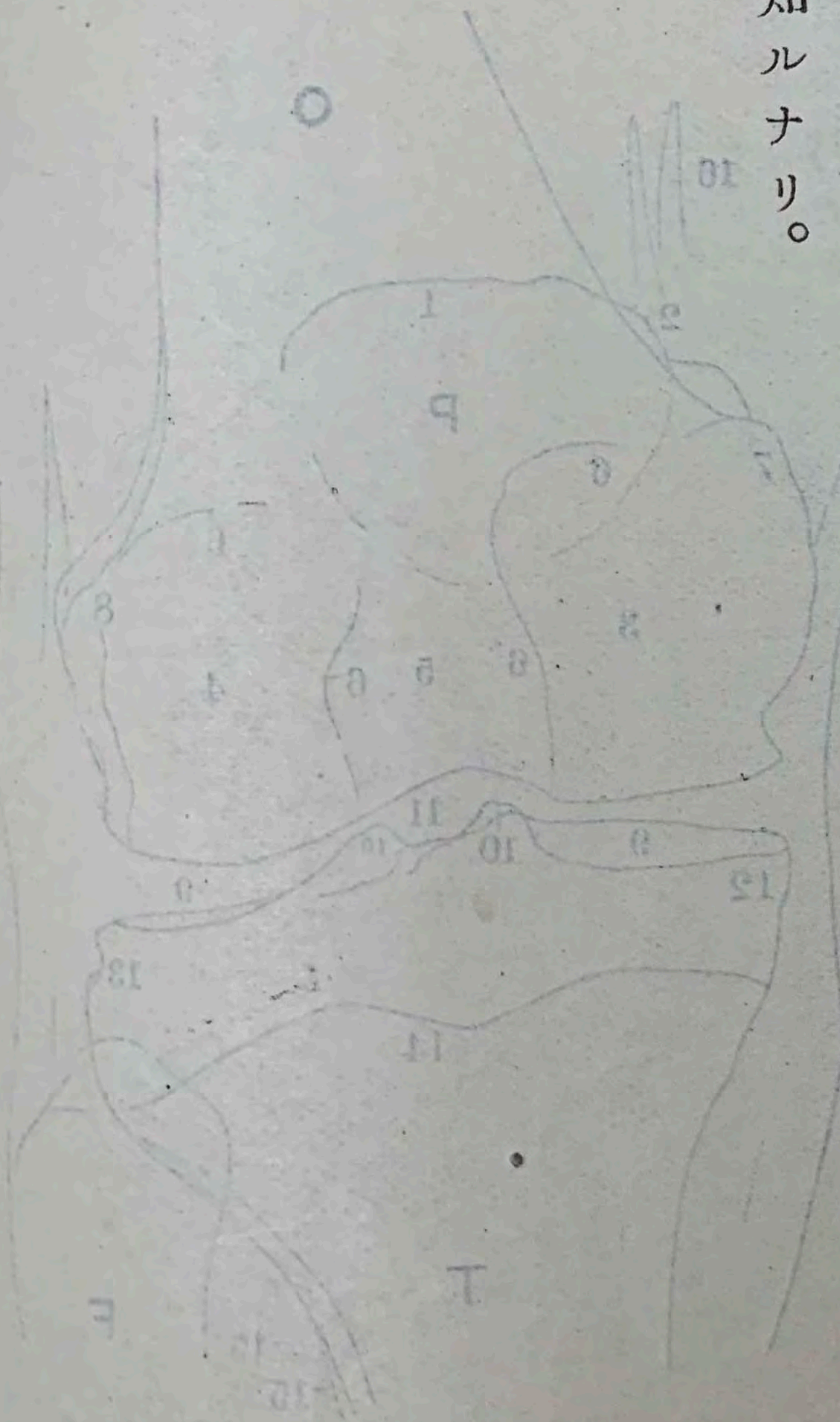
F 腓骨 T 脛骨

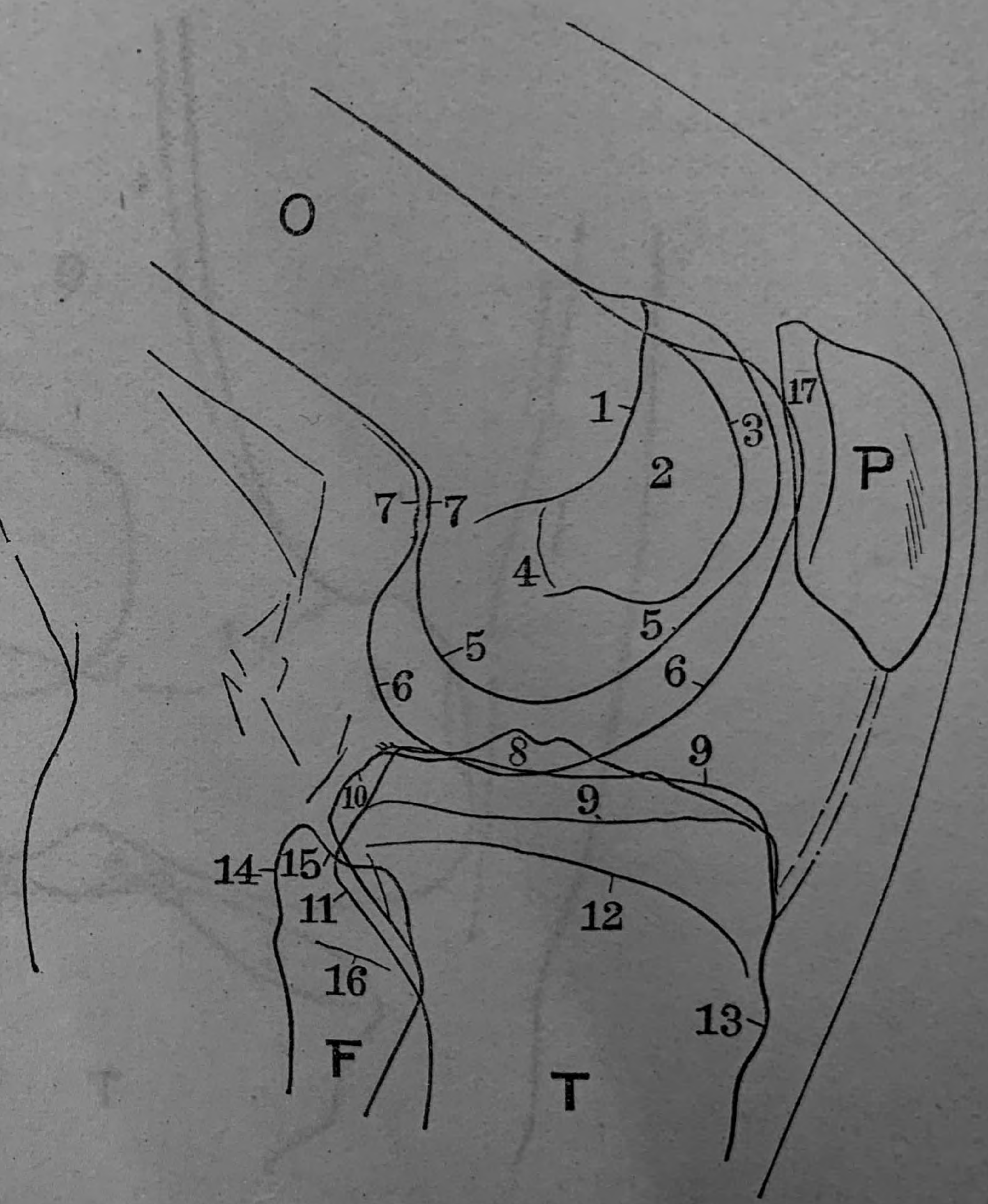
第四十四表

第五十六圖

大人ノ膝蓋(側面撮影)

本圖ニ於テハ特ニ記載スベキモノナキモ、長骨ニ於テハ骨端線ガ線狀ヲ呈セリ。大腿骨ニ於テハ後側内外髁ヨリ膝膕面ニ移行スル部位ガ、凸凹不平ノ粗糙部(7)トナレリ。脛骨ニ於テハ脛骨結節(13)ガ明ニ現レ。腓骨ニ於テハ脛骨關節面(15)及ビ腓骨小頭端(14)ヲ區別シ、其他膝蓋骨ニ於テハ關節面(17)ヲ明ニ知ルナリ。





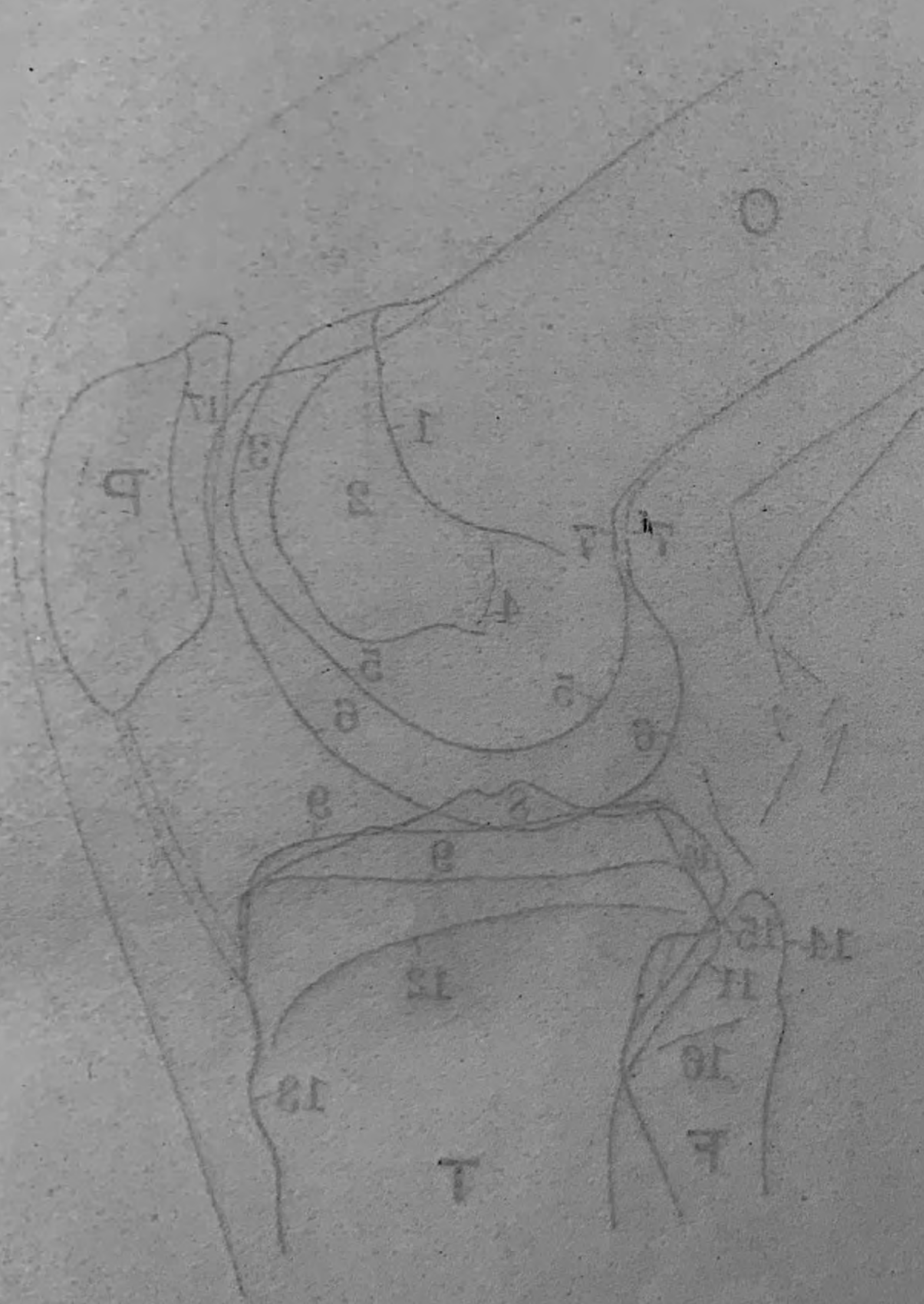
- | | | | |
|----|--------|----|--------|
| 1 | 大腿骨々端線 | 2 | るーどるふ班 |
| 3 | 膝蓋面 | 4 | 膝窩底 |
| 5 | 内髌 | 6 | 外髌 |
| 7 | 粗糙部 | 8 | 髌間隆起 |
| 9 | 關節面 | 10 | 内關節髌 |
| 11 | 外關節髌 | 12 | 骨端線 |
| 13 | 脛骨結節 | 14 | 腓骨小頭 |
| 15 | 脛骨關節面 | 16 | 骨端線 |
| 17 | 關節面 | | |
| O | 大腿骨 | P | 膝蓋骨 |
| F | 腓骨 | T | 脛骨 |

第四十五表

第五十七圖

大人ノ膝蓋(正面撮影)

通常膝蓋ヲ撮影スルニハ、仰臥位ニ於テ行フモノナルガ、膝蓋骨ノ陰影ハ明劃ヲ失フガ故ニ、特ニ膝蓋骨ノ明瞭ニシテ、且ツ大腿骨ヨリ多少ナリトモ分離セシメント欲セバ、腹臥位置ニ於テ放射正中線ヲ外方ニ轉ズルナリ。



第四十六表

第五十八圖

O 大腿骨
T 脛骨

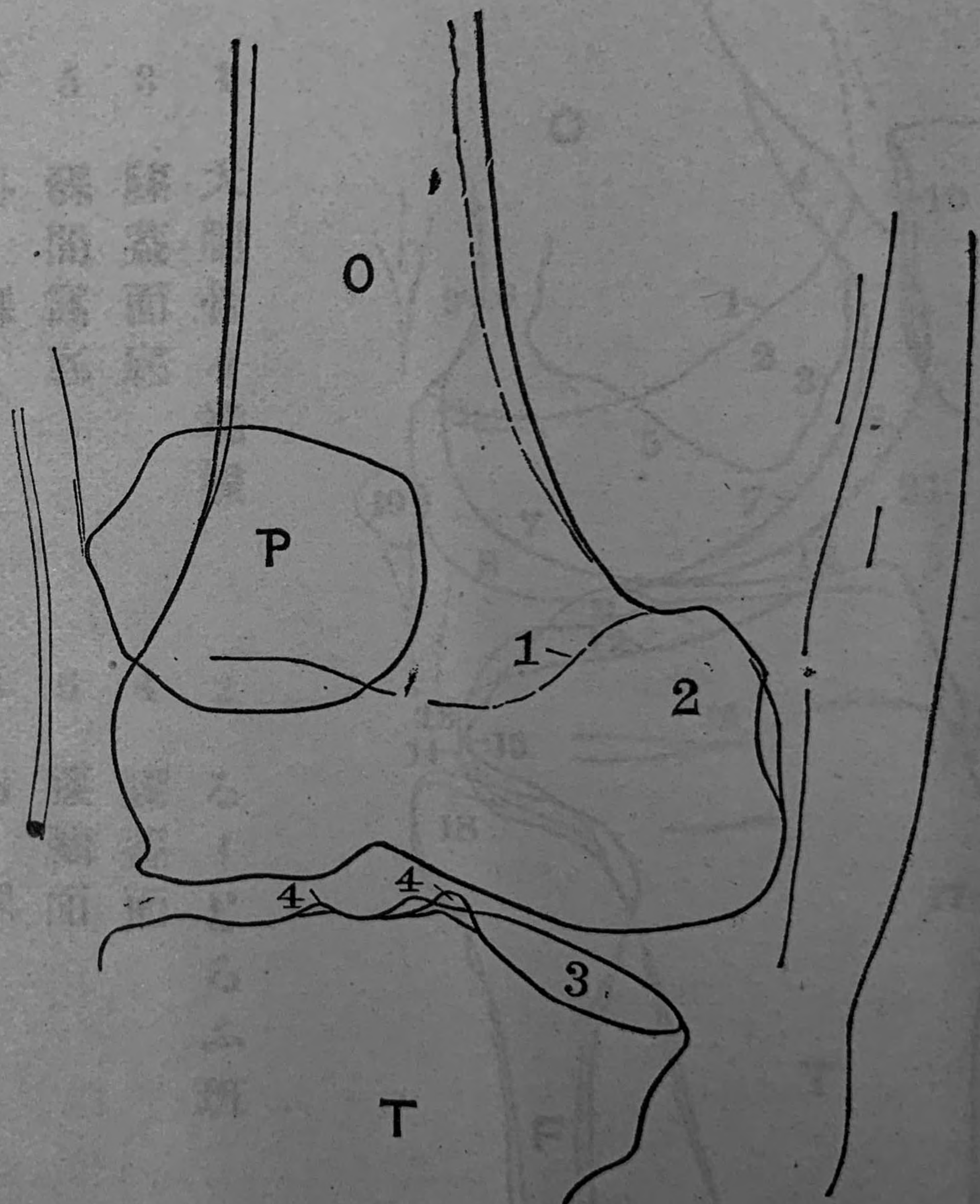
P 膝蓋骨

3 關節面

4 顆間隆起

1 骨端線

2 外顆



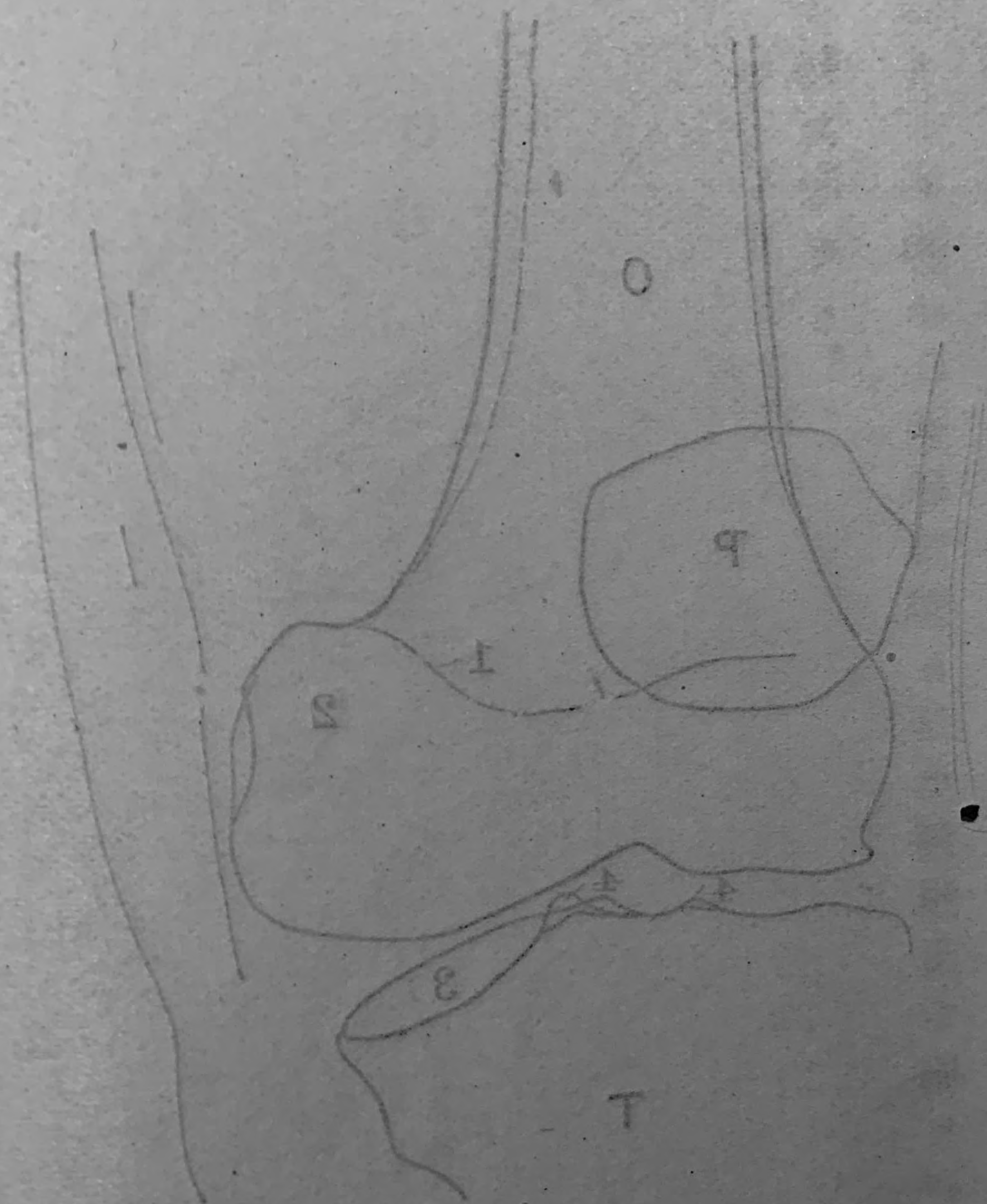
第四十六表

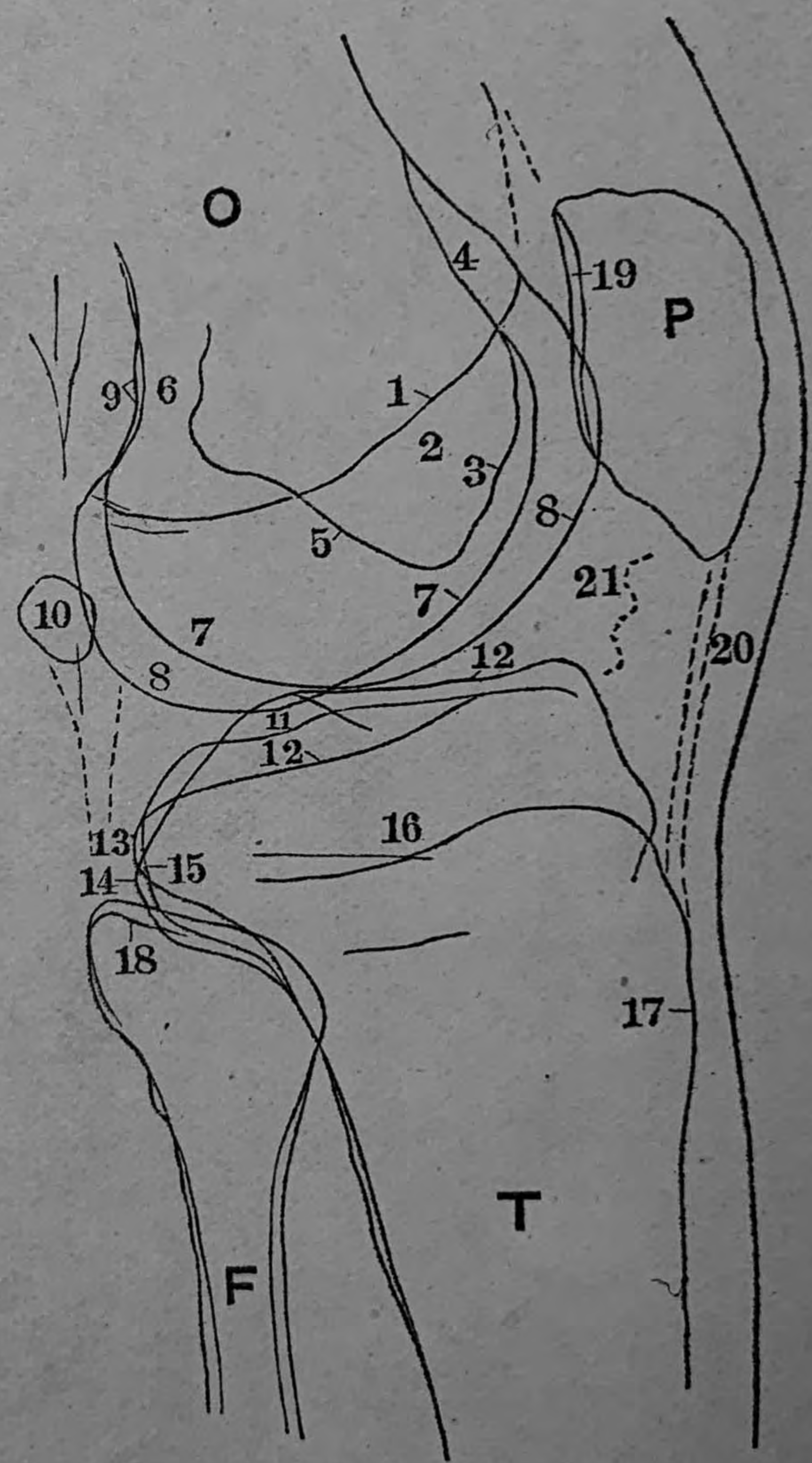
第五十八圖

膝蓋部ニ於ケル種子骨

側面撮影ヲ施シタル寫眞ニ於テ大豆大ノ種子骨

(10)ヲ見ルコト少カラズ。

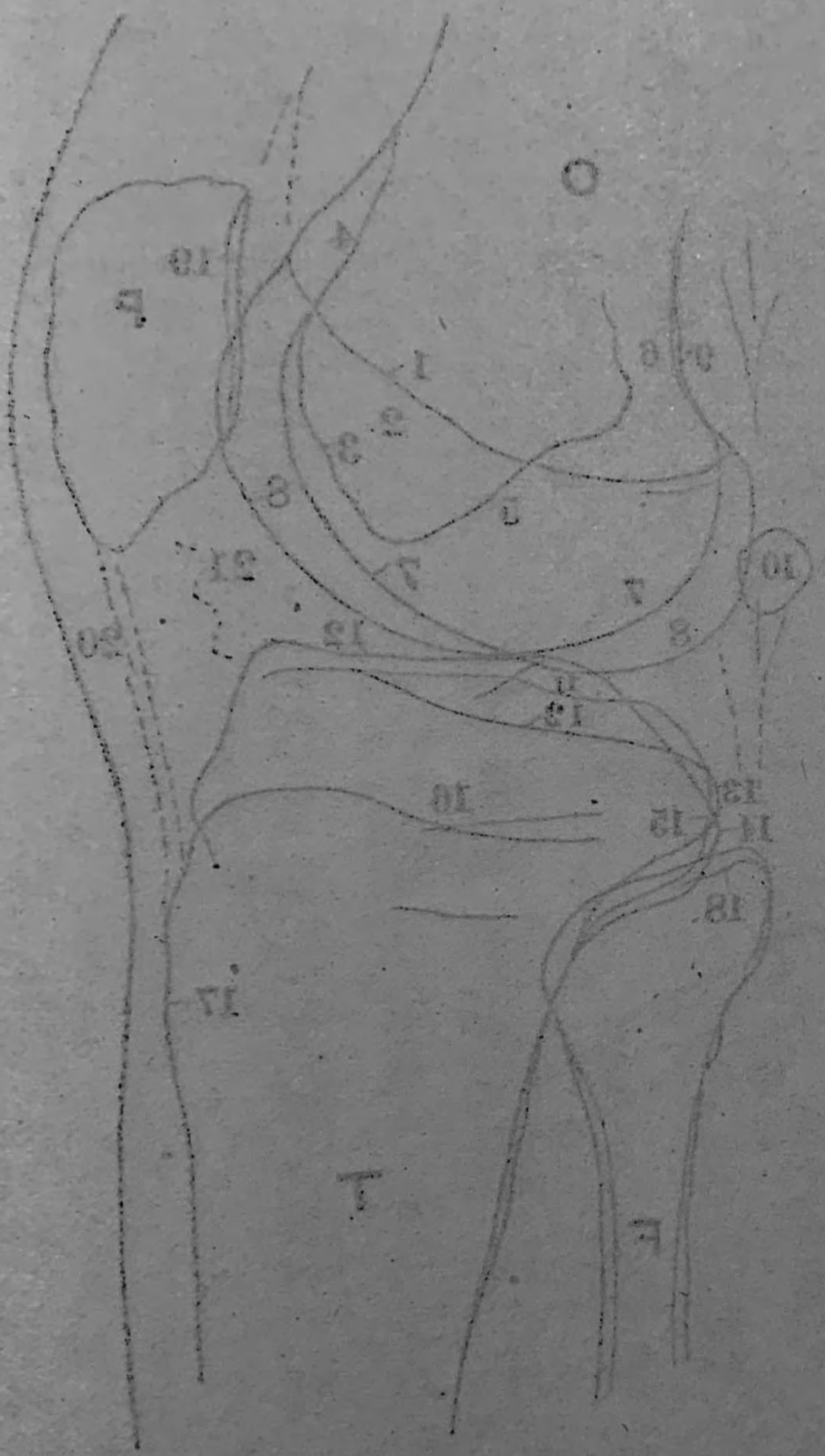




- | | | | |
|----|--------|----|--------|
| 1 | 大腿骨々端線 | 2 | るーどるふ班 |
| 3 | 膝蓋面底 | 4 | 膝蓋面 |
| 5 | 髌間窩底 | 6 | 膝蓋面 |
| 7 | 外髌 | 8 | 内髌 |
| 9 | 粗糙部 | 10 | 種子骨 |
| 11 | 髌間隆起 | 12 | 關節面 |
| 13 | 内關節顆 | 14 | 外關節顆 |
| 15 | 兩關節間部 | 16 | 骨端線 |
| 17 | 脛骨結節 | 18 | 腓骨小頭 |
| 19 | 關節面 | 20 | 靱帶 |
| 21 | 滑液膜絨毛 | | |
| O | 大腿骨 | P | 膝蓋骨 |
| F | 腓骨 | T | 脛骨 |

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
 大腸骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨 肋骨
 大腸骨 肋骨

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
 大腸骨 肋骨
 大腸骨 肋骨



大正九年五月廿八日印刷

第四輯

大正九年六月一日發行

正價金五圓

著者

藤浪剛



東京市神田區通新石町九番地

發行者

大柴四郎

東京市神田區塗師町五番地

寫眞
調製者

市村駒之助

東京市本所區番場町四番地

印刷者

守岡功

東京市本所區番場町四番地

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場

東京市神田區通新石町九番地

發行所

朝香屋書店

電話神田二二三番

振替東京二四三番



FIG. 48



FIG. 49



FIG 50



FIG. 51



FIG. 5 3



FIG. 5 2



FIG. 54



FIG. 55



FIG. 55



FIG. 56



FIG. 57

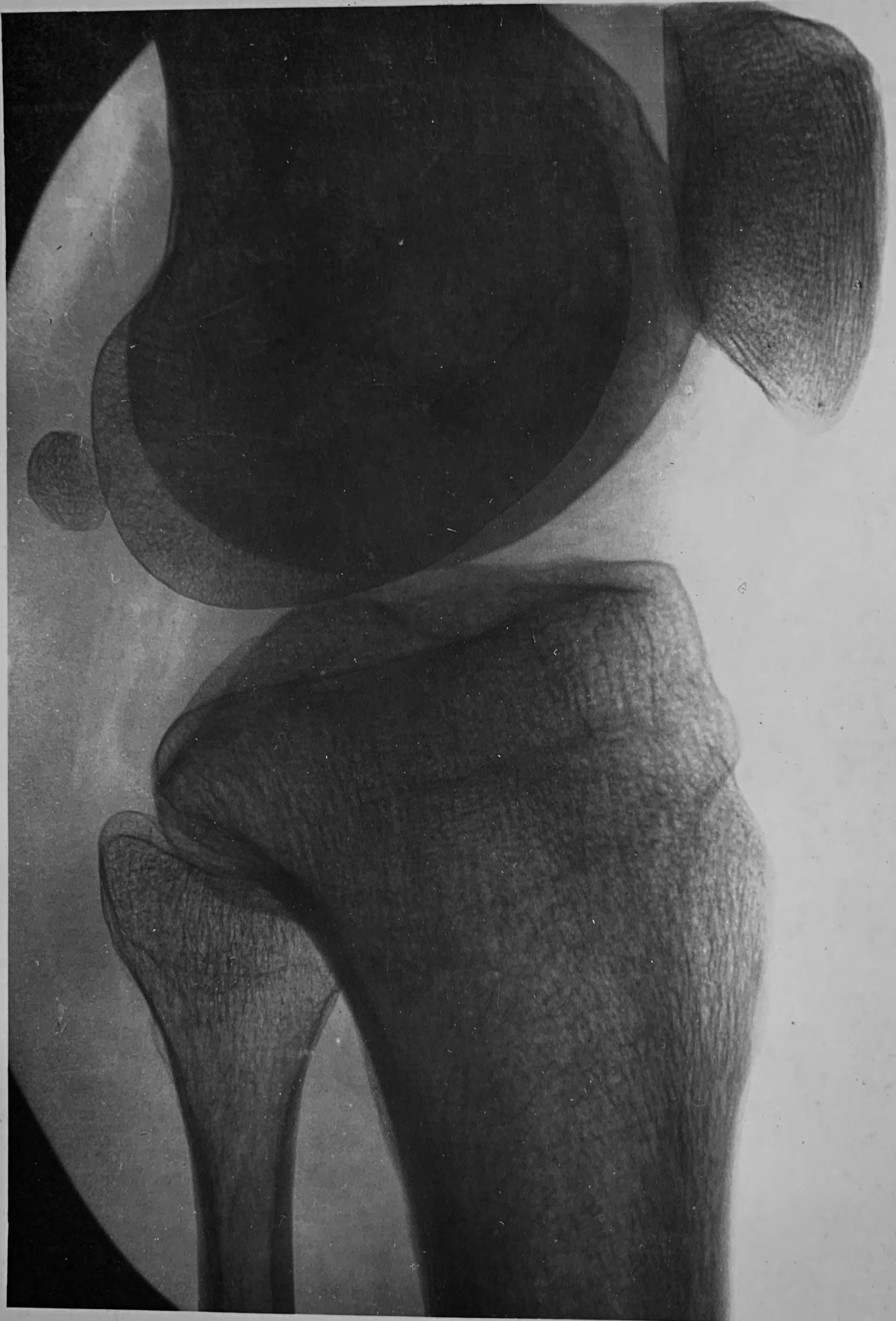


FIG. 58